巻頭言

1961年の回顧

日本ハンドボール協会理事長　高嶋　洌

1961年は日本ハンドボール球界にとって実に意義のある一年だった。よろこびも悲しみもあったが、これはすべて球界の前進を物語るものである。協会設立いらいの念願だった海外遠征が、三月世界選手権大会（七人制）の参加で実現したことである。世界選手権は強豪ルーマニア、チェコのグループにはいって悔いることなく戦ってきた。さらに大会後はフランス、チェコ、ドイツ、イスラエルを転戦し13勝10敗2引き分けの好成績をあげて帰国した。この戦績は必ずしもいいとは思わないが、初めての海外遠征としては満足していいと思う。十月には名門の日体大が韓国から招待されて日韓親善の一役を買って遠征したことも世界選手権参加以上に意義があった。一年のうちで二度も海外遠征できたことは大きなプラスである。でき得れば1962年も、そして1963年も海外遠征したいと思っている。そればかりでなく、ヨーロッパの強豪を日本に招待して、きたるべき1968年のオリンピックに備えたいと思っている。

オリンピックといえば1964年の東京オリンピック大会の開催種目から除外されたのは実にくやしい出来事である。夢にまでみた〃五輪参加〃が東京オリンピック組織委員会の横暴によって消え失せた。式場会長はじめ国際ハンドボール連盟までも〃五輪参加〃に努力してきたのに……。

しかし正式に除外と決まったからには、この決定に従うのがアマチュアスポーツマンの態度であろう。全国のハンドボール・ファンに対しては、ほんとうに申しわけないと思っている。

国内の発展ぶりには大いによろこんでいる。それは女子実業団チームの前進である。大崎電気、レナウン工業、熊本大洋デパートの誕生があり、いずれもトップ・レベルにある。関係者の熱意には感謝している。

また秋田の国体では、大曲、湯沢両市がハンドボールに対して非常な熱意を持ち、第十七回国体（岡山）は女子ハンドボール発祥の地ともいうべき倉敷市で開かれる。

年々地方都市がハンドボールの普及に熱意をみせているのは、ハンドボール関係者にとってうれしいニュースである。日本ハンドボール協会を預かる私ら一同は、さらに努力を重ねて日本のレベルを一段と伸ばしたいと念願している。

「ハンドボール」第八号目次

巻頭言「1961年の回顧」……高嶋　洌…(1)

日韓親善国際試合
日体大、京城・大邱で六戦全勝…(2)
日体大チームを見て……中徳相…(4)
韓国球界の動き……(6)
座談会・韓国みたまゝ……(7)

国体
天皇杯東京が初の総合優勝　皇后杯は茨城と愛知で首位わける……(10)
大崎電気初優勝飾る……(10)
愛知紡が連続優勝……(11)
兵庫工、粘りの初優勝……(12)
水海道二高が二度目……(13)
総評　大崎練習量で桜丘会しのぐ……(14)

学生界
王座決定・芝工大が三たび優勝……(18)
東西対抗・西軍、速攻で二連勝……(19)
東日本・芝浦工大貫録しめす……(19)
西日本・同志社大が初の代表……(19)
関東・芝工大の独走……(20)
関西・同志社大が四度目の優勝……(22)

1961年・10大ニュース……(23)

楽書帖……(16)
時評……(16)
話題のチーム……(31)
地方だより……(30)
投書欄……(32)
質問欄……(32)

ヨーロッパ遠征リポート
ヨーロッパ遠征記②……高島　洌…(24)
欧州における審判の方法②……荒川清美…(25)

技術研究室
ハンドボールのスポーツ傷害……広田公一…(28)
ポストプレーについて…松本重雄…(26)

スポットライト　鈴木レナウン社長…(17)

表紙写真—国体高校女子決勝、水海道二高対静岡城北戦

日体大、京城・大邱で六戦全勝

——日韓親善国際ハンドボール——

日体大ハンドボールチームは韓国ハンドボール協会の招きで10月19日午前9時30分羽田発のノース・ウェスト機で韓国を訪問、ソウル(京城)、大邱で国際親善試合を行なった。成績は6戦6勝で、10月31日午前零時羽田着のノース・ウェスト機で帰国した。日体大チームは10月19日午後零時50分ソウル(京城)郊外の金浦飛行場に到着、直ちに国軍墓地に参拝した。この墓地は二十六年の朝鮮動乱で二十五万人の戦死者を祭ってあり、日本のスポーツマンとしては初めての参拝である。21日ソウル(京城)の第一戦を皮切りにソウルで4試合、大邱で2試合を行ない、日本のハンドボールの妙味をいかんなく発揮した。観衆も日本では想像もつかぬほど多く、六日間で87、000人を動員した。韓国には日体大の出身者が約百八十人いる。栗本団長、馬場副団長、荒川監督、若崎審判員の先輩、後輩が同行したのは、日韓親善のために極めて有意義な遠征だった。なかでも韓国の文教部(日本の文部省に相当する)の体育局長、崔東淳氏は馬場副団長、荒川監督らの親友であり、日体大の訪問を心からよろこんでいた。(カット写真は対慶北大戦から)

すばらしい速攻に驚く 押しかけた大観衆

▽第1戦(10月21日、京城孝昌球技場)観衆 12、000人=全国ラジオ放送=

日体大 22(13—3, 9—4)7 **慶熙大**

▽30分ハーフ
▽スローオフ 日体大
▽主審 朴淳哲(韓国協会理事)

(評) 韓国のプレーをみるとバスケットボールのプレーをやっているようなもの。フットワークはすばらしいし、ドリブルをよく使う。ジャンプ・パス、ジャンプ・シュートと日本では想像もつかないプレーをする。およそハンドボールらしくない。慶熙大は前半こんなプレーを続けたが、日体大の攻撃、守備をみて後半すっかり戦法を替え、ようやくハンドボールらしくなった。韓国のNO・1といっても日体大には全く歯がたたなかった。しかしゴール前でマン・ツー・マン防御になると、バスケットボールの持ち味を十分生かしたので日体大もかなり苦戦した。後半慶熙大はポスト・プレーを多用した。日体大バックスが浮いたところを、このポスト・プレーで得点していた。後半はむしろ慶熙大のペースといっていいほど善戦した。慶熙大はゴール前に殺到すると中央だけを使い、サイドはほとんど使わなかった。韓国のハンドボールがバスケットボール級だったので、日体大が見せたす

ばらしい速攻、パス・ワークには韓国の観衆は拍手でほめたたえた。試合は日体大のワンサイドで北山、青木の二人で大量14点をあげた。慶煕大で光ったのは徐康錫、羅永吉の二人。

(韓国の新聞の評) 日体大はスピードがあり慶煕大を圧倒した。試合開始直後3分に日体大は速攻で1点を先取した。日体大FWには有機的な動き(キープ・アンド・ゴウの意味)で慶煕大のマークを突破した。しかも正確なシュートで前半をリードした。慶煕大は日体大と同じ比率で攻撃したが、日体大の知能的な反則と強い防御陣を破れず、ミス・シュートで敗れた。

〔日体大〕	S	得	反		〔慶煕大〕	S	得	反
島崎	0	0	0	GK	鄭判吉	0	0	0
蓮井	0	0	10	FB	李相達	0	0	4
沢田	1	1	5	FB	金鎮河	0	0	3
石原	0	0	5	HB	白仁植	0	0	6
田上	0	0	10	HB	宋熙万	0	0	4
北岡	1	0	5	HB	金炳喆	3	1	1
小林	7	4	1	FW	卓信一	5	2	0
北山	11	7	0	FW	羅永吉	6	1	1
林	1	1	0	FW	徐康錫	10	2	2
栗山	3	1	0	FW	諸葛玉南	3	0	1
青木	13	7	0	FW	金洪正	4	1	1
(川上)	1	1	0					
(河上)	0	0	0					
(島田)	0	0	0					
計	38	22	36		計	31	7	23
14メートルスロー	0/2				14メートルスロー	0/2		

(注＝2本シュートして得点0)

知能的な反則多い日体大

朴淳哲主審は第1戦の試合終了後、次のように語った。

日体大の速攻は実にすばらしい。パスもシュートも正確である。ただ知能的な反則が非常に多いのがめだった。とくにプッシングが多いのには驚いた。韓国はドリブルをよく使うが、日体大はドリブルを使わない。作戦面は日体大も韓国も全く同じだと思う。

▽**第2戦**(10月22日、京城孝昌球技場)観衆 15、000人

日体大 22(13—3、9—3)6 成均館大

▽30分ハーフ
▽スローオフ 日体大
▽主審 若崎(日体大OB、国際審判員)

〔日体大〕	S	得	反		〔成均館〕	S	得	反
島崎	0	0	0	GK	張裕文	0	0	0
蓮井	0	0	8	FB	金栄佑	0	0	11
沢田	0	0	3	FB	金明均	0	0	2
石原	0	0	4	HB	呉世天	1	1	3
田上	0	0	7	HB	李永真	0	0	4
北岡	0	0	4	HB	孟正述	0	0	1
小林	8	4	1	FW	金秀竜	1	0	6
北山	11	6	1	FW	任源玉	5	0	3
河上	1	1	0	FW	崔敬昌	5	2	2
栗山	3	1	0	FW	姜仁〇	0	0	2
青木	15	9	0	FW	金浩鎰	8	3	2
(林)	1	1	0		(朴善洙)	0	0	0
(川上)	0	0	0		(柳在碩)	0	0	0
計	39	22	28		計	20	6	36
14メートルスロー	2/9				14メートルスロー	2/3		

(注＝2/3 とは14メートルスロー3本で，うち2本ゴールイン)

(評) 成均大は出足よく、スピードを利して日体大陣地に切り込んだ。前半4分呉のシュートで1—1と追いついたが、日体大は12分までに小林、青木の好シュートで5—2とリードした。20分には、8—3、28分に北山のゲットで9—3とし前半を終った。成均大は後半10分まで善戦して12—6としたが、その後は日体大のペースとなった。成均大は左サイドの姜、金(浩)のプレーがよかった。クロスしてフェイント・シュートを打ち、しばしば得点していた。せっかく日体大ゴールに迫っても、日体大バックスの強い当たりでカットされチャンスをつぶしていた。

日本ハンドボール界の功労者迎える

ソウル日々新聞

韓国のソウル日日新聞は10月19日の夕刊で「日体大ハンドボール・チームを迎えて」という記事を掲載した。

日体大ハンドボールチームは19日ソウルに到着、21日から国内の大学チームと対戦する。日体大は26年の長い歴史を持ち、かつては日本学生の優勝チームであった。外国チームとの国際試合の経験を有している。日体大の来韓は親善に大きな意義があるほか、韓国側としては韓国人によって創設されたこのチームを迎えるにあたって感慨深いものがある。第11回ベルリン・オリンピック大会で日本がハンドボールを導入したとき、金光善氏(現慶煕大学教授)をはじめ韓国人学生が中心となり、日体大チームの指導的な役割りをつとめた。当時の日体大には金光善氏をはじめ朴義鉉(予備役軍人)、李丙球(ソラバル大学講師)、金鳳梧(ソウル工業大学教授)、柳錫興(昌徳女高教師)、崔東淳(文教部体育会長、日体大二代目キャップテン)、陳命星(韓国ハンドボール協会)、金鍾之(東莱高校教師)、李錫南(慶煕大学教授)、文顕柱(慶熙大学教授)、徐正学(釜山大学教授)、洪淳泰、洪燦永(ハンドボール協会)の諸氏がプレーヤーとして在学していた。

▽…日体大は1937年、ドイツのヒットラー・ユーゲント・チームと対戦したのを契機として長い間ハンドボールの普及発展に努力してきた。第二次大戦後に西ドイツチーム、ルーマニアチームが日本を訪問したとき、日体大チームが主力となって対戦した。1937年の全日本選手権大会に初めて優勝し、1940年、1942年の日独親善試合にも日体大チームが大いに活躍した。日体大は日本ハンドボールの功労者である。日体大の速攻は有名であり、韓国ファンの前にその妙技をみせてくれるだろう。

慶北大にも圧勝

▽**第3戦**(10月24日、大邱総合運動場)観衆 25、000人

日体大 26(13—3、13—7)10 慶北大

▽30分ハーフ
▽スローオフ 慶北大
▽主審 文顕柱(慶煕大教授、日体大OB)

〔日体大〕	S	得	反		〔慶北大〕	S	得	反
島崎	0	0	0	GK	崔義培	0	0	0
蓮井	0	0	3	FB	石容元	0	0	2
沢田	0	0	0	FB	金昌漢	1	0	2
石原	1	0	0	HB	朴鐘栄	0	0	2
田上	1	1	2	HB	沈載昊	0	0	6
北岡	0	0	2	HB	金永洙	0	0	2
小林	13	6	0	FW	金斗海	7	3	5
北山	2	1	0	FW	朴昌録	0	0	3
河上	6	4	0	FW	裵至蔵	1	0	0
栗山	7	4	0	FW	趙元海	15	6	1
青木	4	4	0	FW	金忠永	3	1	3
(島田)	0	0	0	FW	姜錫朝	5	0	0
(林)	1	1	0					
(川上)	11	5	2					
(高木)	0	0	0					
計	46	26	9		計	32	10	26
14メートルスロー	3/4				14メートルスロー	1/1		

(評) この試合には慶尚北道知事の朴海軍中将夫妻が観戦した。大邱地方はサッカー、バスケットボールよりもハンドボールが盛んなところである。

慶北大は粗雑なパス、不正確なシュートで日体大に歯がたたなかった。日体大は速攻、しかもみごとなラン・パスで慶北大のデフェンスを簡単に破り、13分までに8—0とリードした。慶北大は15分にやっと金（忠）のシュートで初めて得点し、16分には趙が14メートルスローを決めた。後半は川上、小林が連続シュートして22分には18—5と大差をつけた。慶北大は単身ドリブル、ミドルシュートで善戦した。プレーそのものは荒けずりだが、アタックが非常に鋭った。基礎技術をつけると大いに伸びるチームだった。

▽第4戦（10月25日、大邱総合運動場）観衆 23、000人

日体大 18（9—2 / 9—2）4 大邱学生選抜

▽30分ハーフ

▽スローオフ 大邱学生選抜

▽主審 若崎（日体大OB、国際審判員）

〔大邱学生〕反	得	S			〔日体大〕	S	得	反
0	0	0	白仁植	GK	島崎	0	0	0
3	0	0	朴青得	FB	蓮井	0	0	7
1	0	0	宋熙萬	FB	沢田	1	1	1
2	0	0	金海洋	HB	石原	1	0	8
1	0	0	金昌煥	HB	田上	0	0	5
2	0	0	金一慶	HB	北岡	0	0	2
1	0	0	曾成虎	FW	小林	2	0	2
4	2	13	羅永吉	FW	北山	8	3	2
3	0	6	諸葛玉南	FW	林	5	2	0
2	0	2	金在圭	FW	栗山	1	0	0
4	2	6	黄大品	FW	青木	14	8	0
0	0	0	（白鏡燁）		（島田）	0	0	0
					（河上）	2	0	0
					（川上）	9	4	0
					（高木）	0	0	0
24	4	27	1/3	14メートルスロー	0/1	43	18	27

(評) 大邱学生選抜チームは嶺南高校のOBチーム、実力は日本に高校ハンドボールが移入した当時の大学のレベルである。大邱チームには慶熙大の羅永吉、宋熙万、諸葛玉南が加わったがチームプレーは全くみられず、ほとんど個人プレーだった。バスケットボールのクセが抜けず、ドリブルが多く、スピードはない。

日体大は前半で青木が5点、北山が2点、川上が1点、林が1点を入れて大勢を決した。大邱選抜の得点は前半19分に黄、28分に羅が（14メートルスロー）後半14分に黄、22分に羅が得点しただけである。終始日体大のペースだった。

日体大チームを見て

ハンドボール開眼の思い

ソウル日日新聞社 申徳相

韓日親善ハンドボール競技のため来韓した日体大チームは、韓国のプレーヤーにまたハンドボールファンに開眼の機会を与えてくれた。韓国ハンドボール界にとっては国際競技の処女対戦であり。しかも韓国のレベルを知る絶好のチャンスだった。

しかも相当期待をもっていたし、実力は五十歩百歩であろうと予想した。しかし結果はあまりにも悲惨なものであった。

▽…日体大の息づまるような速攻とシュートが継続し、正確な得点が展開するのを見たとき、韓国側には失望とともに大きくうなずかれる点が少なくなかった。ダッシュのすさまじさ、無理のないモーション、すぐれた走力、特にシュート・モーションの多形的な変化は学ぶ点が多かった。ジャンプしゴールに向かってシュートする方法しか知らない韓国側の単純な方法にくらべ、日体大は

1 走りながらシュート

2 ゴール・ライン前で打ちつけるようなシュート

3 野球の投手のようなアンダー・スロー・シュート

4 ダイビンク・シュート

5 GKのモーションをくずしてから打つゆるいシュート

反則続出の延世大

▽第5戦（10月28日、京城孝昌球技場）観衆 5、000人

日体大 21（14—4 / 7—6）10 延世大

▽30分ハーフ

▽スローオフ 延世大

〔延世大〕反	得	S			〔日体大〕	S	得	反
0	0	0	嚴右雄	GK	島崎	0	0	0
4	0	0	李根膺	FB	蓮井	0	0	5
2	0	0	鄭奎源	FB	沢田	1	0	2
4	0	0	丁聴	HB	石原	1	0	2
4	0	0	金舜濱	HB	田上	0	0	1
5	0	2	李根植	HB	北岡	1	1	0
0	0	0	尹泰助	FW	小林	8	5	1
3	2	4	金勝男	FW	北山	5	2	3
2	6	12	金相坤	FW	河上	1	0	1
2	2	7	方熙德	FW	栗山	4	4	0
1	0	2	盧永吉	FW	青木	12	8	2
2	0	0	（崔炳宇）		（島田）	0	0	0
0	0	0	（金永崎）		（林）	1	1	1
3	0	0	（盧性鎬）		（川上）	1	0	0
2	0	0	（金光烈）		（高木）	0	0	0
34	10	27	0/0	14メートルスロー	2/4	35	21	18

▽主審 李（韓国協会理事、昌徳女子高校教官）

(評) ゲームの内容は特に取り上げるものはない。後半日体大がメンバーを落としたので延世大が善戦し、7—6のスコアとなった。

延世大はサッカー、バスケットボール、野球の選手を寄せ集めたのはおもしろい。この試合の主審のジャッジはきびしかった。バスケットボールの観念が抜け切れず、延世大は反則の続出だった。日体大は前半21分から29分までに7点をあげるすばらしさだった。

練習次第で韓国No.1

▽第6戦（10月29日、京城孝昌球技場）観衆 7、000人

日体大 21（14—2 / 7—6）8 光州師範大

▽30分ハーフ

▽スローオフ 光州師範大

▽主審 文顕柱（慶熙大教授。日体大OB）

〔光州師範〕反	得	S			〔日体大〕	S	得	反
0	0	0	金仁権	GK	島崎	0	0	0
5	0	0	李奉圭	FB	蓮井	0	0	4
3	1	1	廉聖洙	FB	沢田	0	0	4
1	0	0	金誠一	HB	石原	0	0	0
3	0	0	梁正男	HB	田上	0	0	2
6	0	0	申鳳植	HB	北岡	0	0	8
1	2	7	朴千祚	FW	小林	10	6	1
2	4	9	朴三栄	FW	北山	6	3	3
3	1	3	沈桐燮	FW	林	0	0	1
1	0	2	金昌勲	FW	栗山	5	4	1
5	0	4	金正勇	FW	青木	11	7	0
1	0	0	呉三相		（島田）	0	0	0
0	0	1	金錫桂		（河上）	1	1	0
0	0	0	宋杜享		（川上）	0	0	0
					（高木）	0	0	0
31	8	27	0/0	14メートルスロー	1/1	33	19	24

6 ゴロのシュート

7 そうして攻撃陣の全員がひとしく左右のシュートをするなど初めて見るプレーだった。

▽…日体大のチームは6ゲームを通じてギブ・アンド・ゴーのパスを見せた。そして韓国チームの守備陣をさそい込み、かく乱してから自由自在にシュート・チャンスをつくり、正確なシュートで得点128点、失点45という記録を残した。ランニング、ジャンピング、シュートにいたるまで基本的訓練を十分積んでいた。これに対して韓国チームはフォーメーションもなく、無理にシュートしていた。それだけに日体大のプレーをみてよい経験になったと思う。日体大の栗本学長は韓国側のチームに対して次のような点を指摘してくれた。

1 個人プレーがあまりにも多い。このためシステムを整えることができない。

2 ドリブルが多いので速攻にならない。そして相手のディフェンスに余裕を与えている。

3 プレーが単純で総合力がない。

▽…栗本団長は「韓国の選手はすぐれた体力を持っているので、遠からず国際水準に達するだろう。三十七年には韓国の大学チームを日本に招待したい」と語った。日本は国際試合と海外遠征で経験と実力を磨いたとのことであり、日本の高校チームが約七百ときいて実にうらやましい。二十余年前に韓国人によってスタートした日本のハンドボールがこんなに強くなっている。われわれ韓国チームは大いに発奮しなければならない。ハンドボールは日体大のようにスピードがあり、スリルなものであるということを韓国に教えてくれた。ハンドボールを科学的に研究しなければならない。

第3戦　日体大対慶北大戦

× × × ×

遠征余話

▽…韓国遠征から帰国した馬場副会長は「韓国へ着いたらいきなり赤飯を出された。これには驚きもしたし、うれしくもあった」という。ところが次のことばがふるっている。「実はそうじゃないんだよ。いまの韓国は軍事政権だろ。法律で白い米を食べることを禁じている。だからコーリャンなど雑穀を入れて食べるんだ。だからホテルとしては赤飯のつもりではなく、法律に従ったまでのことさ」。

(評) 光州は体育の教師ばかりだったので、第6戦でやっとハンドボールの試合らしくなった。前半日体大速攻で光州バックスを思う存分かき回し、14―2と大差をつけた。光州は後半になって日体大の攻め方をおぼえ、逆に日体大がメンバーを落としたので好試合となった。後半1分廉、9分30秒朴(二)、11分朴(千)がシュートして3―1と光州がリードした。日体大は小林、青木にボールを集めて打たせ後半7―6と逆転した。光州チームは練習次第では韓国NO1になろう。ゲーム終了後に日体大チームを紅白に分けて七人制を披露した。初めてみる日本の七人制に韓国ファンは目を見はり、そのスピードに驚いていた。

第八回全日本総合室内ハンドボール選手権

36年12月20日～23日

(男　子)

K. W. S(東京)
明大(〃)
芝浦工大(〃)
都立五商高(〃)
東京学芸大(〃)
明星ク(〃)
旭桜ク(〃)
松ケ枝ク(大阪)
順天堂大(千葉)
立教大(東京)
篝火ク(岐阜)
墨田川高(東京)
函館工高OB(北海道)
東北学院大(宮城)
日体大(東京)

決勝戦

全日体大(東京)
早大(〃)
熊本ク(熊本)
赤門ク(東京)
福島大ク(福島)
浦和市高(埼玉)
京都ク(京都)
全立教大(東京)
加納高(岐阜)
全教大(東京)
日大(〃)
滴水会(〃)
イーグルス(大阪)
明友会(東京)
清水市商高(静岡)
大崎電気(東京)

(女　子)

都立桜水商高(東京)
日女体短大(〃)
愛知紡績(愛知)
清水女高(静岡)
県立有磯高(富山)
深谷女高(埼玉)
西峯ク(茨城)
大垣南高(岐阜)
大崎電気(東京)

決勝戦

日体大(東京)
京都女高OG(京都)
栃木女高(栃木)
和洋女高(秋田)
菊華女高(東京)
大谷高ク(大阪)
半田高(愛知)
全熊谷女高(埼玉)
レナウン工業(東京)

日体大留学生が紹介

韓国ハンドボール界のあゆみ

韓国のハンドボールは第11回ベルリン・オリンピック大会が終了後に、日本陸上競技連盟がハンドボールの規則書を持ち帰った。当時日本に留学していた韓国の学生が1936年の秋に日本体育研究所で開かれた練習会に出席した。このとき初めて韓国がハンドボールを研究したことになる。そのころ韓国の留学生は日体大に在学していた。李雨球、朴済煥、柳錫興らがハンドボールを習得して帰国し、韓国に紹介した。その後本格的にハンドボールに打ち込んだ。それ以前に当時の普成専門学校（現在の高麗大学）に勤務していた李氏の手によって、体育の時間に簡易ハンドボール的なものをやっていた。1941年に全国体育大会（当時は第十七回朝鮮神宮大会＝内地の神宮大会に相当する）に正式種目として登場した。一般チームは鶏明クラブ（日体出身者）、海州チーム、男子中学は海州東中学、普成中学、徽文中学、女子中学は京城女商、培花女高が出場した。初めての競技会としては最高の出来ばえで、朝鮮スポーツ界にデビューした。この大会の前年（1940年）に朝鮮送球協会が設立した。その後回を重ねるにつれて、ハンドボールの持つ体育的特徴から各学校に普及され、国技として発展する途上にあった。不幸にして第二次世界大戦の勃発でそのチャンスを逸した。

▽…1945年の終戦と同時に再びハンドボールは大いに普及して行った。国民学校（小学校）の大会から中学、高校、大学の大会を開き、チームも年々増加した。ところがその後38度線のため南北に分離され、1950年の北鮮軍、中共軍の韓国侵攻（朝鮮動乱のこと）でハンドボールの有能な指導者が続々と軍隊に召集された。各地の組織体はその機能を停止し、1952年の避難生活のためハンドボールは全く影をひそめた。しかし残留幹部は必死になってハンドボール普及に日夜努力を続けてきた。朝鮮動乱後にソウル（京城）を中心として釜山、全州、清州、光州の各地で盛んになった。いまではハンドボールが韓国でいちばん愛されているスポーツになっている。1960年9月ベルギーのリヘヂで開かれた国際ハンドボール連盟の総会には韓国から韓炳喆（現協会長）、文顕柱の両氏が出席し、正式に国際連盟に加盟した。

▽国内の組織

8道1特別市、計9支部
（道とは日本の県に相当する）

（チーム数）

一般	4			
大学	男子	12	女子	2
高校	男子	180	女子	60
中学	男子	90	女子	40
計	394			

▽全国種目別選手権大会参加チーム

一般	4			
大学	男子	6	女子	2
高校	男子	18	女子	8
中学	男子	10	女子	6
計	54			

▽会長

初代 李丙学
二代 李宣根
三代 韓炳喆（現在）

高校生を招きたい

日韓懇談会で韓国側希望

日本、韓国両ハンドボール協会は10月29日の第6戦の試合終了後に懇談会を開いた。席上韓国側から『日体大の韓国遠征によってハンドボールの真髄をみせてくれた。とくに速攻のすばらしさは感心した。韓国ではいつも前半を終るとファンは帰ってしまうが、日体大の速攻がすばらしかったので最後までゲームを見ていた。こんなことは珍しいことである』と日体大の速攻をほめていた。このあと『日本から優秀なコーチが二人来てくれると実にうれしいのだが……。二年間みっちりコーチしてくれたら韓国は強力なチームになる』とコーチ派遣を希望してきた。さらに『来年は韓国から大学チームを日本に遠征させたい。日本からは高校チームを韓国へ遠征させてほしい』と日韓親善試合の開催を申し入れた。日本側は『出来るだけ努力する』と返答して懇談会を終った。

座談会

韓国みたまゝ、感じたまゝ

京城のメーンストリート風景

出席者

韓国遠征日体大チーム

団長　栗本義彦

監督　荒川清美

司会　的場益雄

ホテルで毎日赤飯攻め

司会　帰国早々お疲れのところどうもご苦労さんです。きょうは韓国を見て感じたままをお話し願いたいと思います。

荒川　どうでしょう。韓国のハンドボール界に限定せず、スポーツ界という立場から、栗本団長にまず話してもらっては。

栗本　韓国はご承知の通り李政権の腐敗による政治の失敗からクーデターが起こり、現在の朴議長による軍事政権になった。一口に言えば、統制下にあって貧富の差も非常なものだ。またわれわれの食事に出すお茶もじゅうぶんにない。あるホテルではご飯をたいたとき、お鍋に焦げついたものをお湯にとかしてお客にさし出した。まあこんな経済状態なんだ。

司会　それでは食物が少ないですか。

栗本　食物はたくさんあるようだね？。

司会　それはどういう意味でしょうか。

栗本　食物だけはたくさんあっても、工業的な生産がなく、文化的な経済生活ができないということかな。

荒川　ホテルでも麦飯を出しましたよ。ああそうそうホテルで赤飯を出してくれたのには笑いましたね……。最初のホテルで赤飯が出たんだ。選手達はこんなにわれわれの歓迎をホテルの人たちまでやってくれるのだということで感激したんだ。ところが次にもまた赤飯だ。おや！　と思ったよ。これでは赤飯攻めだと言って笑ったんだが。常食はホテルでもどこでも雑穀三割ということらしい。

司会　大分統制が徹底しているようですが、娯楽やスポーツの方面はどうですか。

栗本　健全な娯楽をということでスポーツに目をつけているようにも思われた。

司会　荒川君、娯楽は日本にくらべてどうですか。自由ですか。

麻雀、パチンコは厳禁

荒川　とんでもない。マージャン、パチンコ、ダンスなどは厳禁のようです。

司会　それなら日本のような一般大衆の娯楽を禁じてスポーツを奨励しているわけですか。

栗本　まあそのような考え方もあるが、それ以外にスポーツによる体力養成を考慮している。その国民の体力養成は国力に通ずると考えている。

司会　そうですかね？　それでは戦時下の日本での考え方と同じですね……。

荒川　まあ似通っている点は確かにある。夜遅くの外出は厳禁だ。ひどいもんですよ。とにかく夜十一時半になるとサイレンが鳴る。十二時に再びサイレンだ。そのとき戸外で酒で酔っていようものなら容赦なしに「ブタ箱入り」とのことだ。

韓国球界の動き

司会　さて韓国ではどんなスポーツが普及してますか。

栗本　韓国も日本とだいたい同じようなスポーツだと考えればよい。体育協会に加盟している競技種目は三十六種目といってた。ちょっとヤマをかけているのかもしれない。

司会　韓国のハンドボールについて。

栗本　一九六〇年に国際ハンドボール連盟に加盟が認められた。本部ならびに支部の組織についてはまだじゅうぶんでないようだ。しかし文教部の体育局長の崔東淳君が韓国ハンドボール協会の審判部長をしているところをみても、役員はそろっている。

さながら日体大OB会の観がある、韓国ハンドボール界要人との歓談風景。
左から　崔東淳文教部体育局長、荒川清美監督、洪淳泰韓国ハンドボール協会理事長、文顕柱同技術委員長、韓炳喆同協会長。（京城ホテル前にて）

司会　崔（さい）という名前は聞いたことのある名前ですなあ――。日体出身ですか。

栗本　そうだ。日体大の卒業生が韓国のスポーツ界で活躍している。ハンドボール協会長の韓炳喆（かんへいきち、成均大教授）、理事長の洪淳泰（こうじゅんたい、成均大教授）もそうであった。

司会　さて日体大が大いに活躍し、六戦六勝という完勝ですが、韓国の技術はどのていどですか。

個人プレーが多い韓国

栗本　十月二十一日の最初の試合（京城）では少し心配した。韓国チームは背も高いし、腕力も日本チームより秀れているように見えたので、ひょっとすると食われるかもしれないとひそかに心配した。

荒川　そうだった。実際これはいかんとさすがの自分も心配していた。

司会　私は新聞で22―7の成績を見てこの成績なら日本では二部以下の力だと考えたのですが。

荒川　そうではない。シュートは強力だがチーム力がない。結局個人プレーが多すぎる。

司会　その点についてもっとくわしく話してくれませんか。たとえばフォワード、バックスというふうに。

荒川　それではまずフォワードからいうと、第一にドリブルが多すぎるね。個人プレーが多く、グラウンドの使用面積が小さい。だからとても守り易いわけだ。第二にパスする時いつもジャンプするくせがある。だから時機がずれたり、シュートはゴールの上だけ打っていた。第三にこちらの守備陣に突っ込むことが少ない。ドリブルではいろうとするだけだから守り易すかった。第四にサイドをあまり使わないね。攻撃の幅がなかった。

大邱ホテル前にて作戦をさずける荒川監督

司会　この話をきいていると初心者のプレーのようだ。日本も以前このようなプレーが多かったことを思い出す。ドイツ、ルーマニアなど世界のトップレベル・チームとゲームやっているうちに、このように技術の差がついたのかもしれない。自己反省の意味でもこうした外国遠征は意義がありますね……。ところで守備について話してくれませんか。

初心者のプレーのよう

荒川　守備はマン・ツー・マンでもなしゾーンでもない。ボールのある方へバックスがつられて集っていたね。またボールを持った相手に対しアタックがない。だからよく走ってパスで攻撃すれば容易に得点できた。

司会　キーパーはどうでした。

荒川　欠点ばかりいうようだが、キーパーはバックスとのコンビが全然なかった。また下が特に弱かった。今まで上ばかりシュートされたから、下の練習はしていなかったのかもしれないね……。

司会　審判上なにかくい違った点はありませんでしたか。

荒川　審判上のトラブルはなかった。しかし相手に対する動作では若干考え方が違っているようだった。バスケット的に考えているようだった。最初の試合で日本のバックスが荒いと感じたらしい。次の試合か

ら韓国の反則が急に増えた。

栗本 規則をじゅうぶん知らないらしいね。日本チームが何回も交代するのを見て驚いていた。そして自分のところへも質問にきた。

荒川 反則の笛に対し、その反則がなんの反則かわからぬので審判にきいたりしていた。

司会 それでは日本で創案してやっているジェスチアーを教える必要があったわけだね。

栗本 ジェスチアは、プレーヤーにも記録員にもはっきりさせると同時に、審判の確立の上にも役立っているね。

司会 韓国の審判員について感じたことはありませんか。

栗本 審判員の笛が遅いね。フリースローの場合などゆっくり笛を吹く。

荒川 団長がおっしゃるようにのんびりしているというか、ちょっと遅すぎますね。

司会 そのほかなにかお話はありませんか。

高価な日本出版の本

栗本 韓国では日本版の本が高価だね。米国の息のかかった統制下にあるためか、英文の本もたくさんある。しかし日本の本は少ない。とても日本の本をほしがっていた。

荒川 いま思い出したが、韓国で最初の

あいさつは英語だった。英語は自分もあまり強い方でないのでちょっと困った。ところが先方も儀礼的に最初だけで、途中から日本語で互に話し合った。米国式の軍制下だからかもしれない。

司会 今後の日韓親善ゲームについてなにか話がありましたか。

栗本 韓国は日本に教わる立場であるからとても希望していた。来年度大学チームをぜひ日本へ派遣したいから招待してほしいと熱願していた。こちらもその希望をかなえるよう帰国後関係者とも相談して努力するといっておいた。

荒川 日本の高校チームを韓国へ招待したいと申していましたね。

栗本 そんなことを言ってたね。それから韓国の将来の見とおしだが、現在はいま話し合ったようにハンドボールの技術も未熟だ。しかし体力もあるし、スポーツに対する対策が徹底しているから数年のうちには恐るべきチームになる気がするね……。

荒川 実際そう感じましたよ。

栗本 韓国スポーツ界の要人や新聞記者たちからもよくその点を聞かれた。お世辞というよりも実際そう思ったので卒直にほめておいた。大いに期待しているといったらとても喜んでいた。

司会 長時間にわたりどうもありがとうございました。大変参考になりました。重ねてお礼を申しあげます。

高校訪問で李校長と握手する栗本団長（右）

海外ハンドボール通信

▽ルーマニアで開かれた今年度ブカレスト杯選手権（ルーマニア選手権）に、ソビエトチームが参加し注目をあびた。大会はリーグ戦形式で行われたが、ブカレストが全勝優勝、ソ連は二位だった。

ブカレストJ　19―4　パンヂヤ・ルカ
ブカレスト　18―14　ソビエト
ブカレスト　32―22　ブカレストJ
ブタペスト　23―18　パンヂヤ・ルカ
ソビエト　17―13　ブカレストJ
ブカレスト　18―9　ブタペスト
パンヂヤ・ルカ　14―13　ソビエト
ブタペスト　10―9　ブカレストJ
ソビエト　18―11　ブタペスト
ブカレスト　16―13　パンヂヤ・ルカ

▽国際試合成績

西ドイツ　20（9―6、11―6）12　オーストリア
ルーマニア　25（15―2、10―4）6　フランス

▽今秋ルーマニア遠征を噂された日本チームは、都合によってこの予定をいちじ延期した。これは東京で開かれた世界アマ・レス選手権に参加していたルーマニア役員と日本ハンドボール協会との話合いによって決まったものである。

大邱の街路で朝のトレーニングをする選手たち

第十六回国民体育大会ハンドボール競技は十月九日から十二日まで大曲市（一般男女）、湯沢市（高校男女）で行なわれた。

一般男子は大崎電気（東京）が名門桜丘会（愛知）を破って初優勝、女子は愛知紡（愛知）が新進の大洋デパート（熊本）を押えて2連勝した。高校男子は優勝候補の中京商（愛知）が準々決勝で桐生工（群馬）に4―3で敗れる番狂わせがあり、決勝は兵庫工（兵庫）と盛岡第一（岩手）の間で争われた結果、兵庫工が初優勝した。女子は名門同士の静岡城北（静岡）と水海道第二（茨城）で決勝戦を行ない。水海道第二が1点差で静岡城北を押えて、第十二回大会いらい二度目の優勝をとげた。

天皇杯得点は東京都が1位となり、初めて総合優勝した。皇后杯得点は茨城、愛知がともに8・5点をあげて1位を分け合った。（カット写真は開会式の秋田民謡おどり）

天皇杯得点＝①東京10点 ②愛知7点 ③富山6点 ④兵庫5点 ⑤大阪4点 ⑥秋田2.5点 ⑥茨城2.5点 ⑧岩手0.33点 ⑧静岡0.33点 ⑧熊本0.33点

皇后杯得点＝①茨城8.5点 ①愛知8.5点 ③熊本6点 ④富山5点 ⑤秋田4点 ⑥静岡3点 ⑦東京2点 ⑧大阪1点

大崎電気、初優勝飾る

一般男子

▽一回戦

全広島 22―5 小松クラブ（石川）
桐生クラブ（群馬） 10―7 函館サンダースクラブ（北海道）
全岩手 14―13 神戸ストーク（兵庫）
住友化学菊本（愛媛） 10―8 全神奈川
氷見クラブ（富山） 21―6 青森クラブ（静岡）

▽二回戦

全岡山 21―13 鵜森クラブ（三重）
全長野 6―5 福岡クラブ（福岡）
京都クラブ（京都） 19―17 全埼玉
北陵会（宮城） 14―13 高知クラブ（高知）
桜丘会（愛知） 18（12―2 6―3）5 全広島
山口クラブ（山口） 6（4―2 2―3）5 桐生クラブ（群馬）
全岩手 9（2―4 4―2 1―0 2―0）6 熊本クラブ（熊本）
氷見クラブ（富山） 10（3―5 7―3）8 住友化学菊本（愛媛）
大崎電気（東京） 14（9―1 5―1）2 全岡山
清商クラブ（静岡） 8（1―3 3―1 0―0 0―0 3―0 1―0）4 全長野
京都クラブ（京都） 14（7―1 7―1）2 大曲クラブ（秋田）
大阪クラブ（大阪） 18（7―1 11―3）4 北陵会（宮城）

▽準々決勝

桜丘会 14（6―2 8―1）3 山口クラブ
氷見クラブ 8（5―1 3―3）4 全岩手
大崎電気 12（4―4 8―2）6 清商クラブ
大阪クラブ 12（6―1 6―2）3 京都クラブ

▽準決勝

桜丘会 12（6―4 6―6）10 氷見クラブ

	〔氷見〕	〔桜丘会〕
GK	飛田	山田
FB	旅、岡部	堀、宇佐美
HB	鏡宮、西田、萩原	角井、伊藤、豊島
FW	池永、稲積、越前、十二町、谷口	牧野、服部、山田、浅野、高村、（尾之内）

氷見		桜丘会
26	シュート	27
35	反則	44
1	14メートルスロー	0

◇得点の上では接戦の形だが、試合の内容はお粗末だった。速攻のチームもグラウンドが悪かったのでどうにもならず、桜丘会が前半のリードを守って逃げ切った。立ち上がり氷見はゴール前でよく動いたが、桜丘会バックスにつぶされた。桜丘会はベテランぞろいで自分のペースで動き、高村にボールを集めて着々と加点した。氷見は高校のOBだけあって若さがあり、最後まで桜丘会を苦しめたのはりっぱだった。

大崎電気 11（6―5 5―5）10 大阪クラブ

	〔大阪〕	〔大崎〕
GK	鷹見	福本
FB	八田、山渕	高森、高橋
HB	望月、安部、東	村上、田口、高井
FW	丸岡、荘林、市場、村中、井上	杉山、小谷内、宮原（藤）、井上、竹野、（金田）

大阪		大崎
29	シュート	30
41	反則	33
0	14メートルスロー	0

◇前半15分まで大阪は村中が3点、井上が2点、大崎は竹野ひとりで3点をあげ、5—3と大阪がリードした。ちょっとしたスキがすぐ得点に結びつくほどだった。15分をすぎてから大崎のバックスは厚いカベをひいたので、大阪は前半タイムアップまで無得点、この間に竹野、井上の好シュートで大崎が6—5と逆転した。後半1分大阪の市場がゲットして6—6、1点を争う好ゲームとなり、大崎は、29分竹野のシュートで11—9と引き離した。勝負はここで決まった。

▽三位決定戦

大阪クラブ 17（11—7 / 6—5）12 氷見クラブ

▽決勝

大崎電気 18（7—5 / 11—8）13 桜丘会

（主審）岡村（教大出）

〔桜丘会〕		〔大崎〕
山田	GK	福本
堀、宇佐美	FB	高村、高橋
角井、伊藤、豊島	HB	村上、田口、高井
牧野、服部、山田、浅野、高村、(尾之内)	FW	杉山、小谷内、宮原(藤)、井上、竹野、(金田)
29	シュート	41
36	反則	37
4	14メートルスロー	1

◇試合終了後に桜丘会の宇津野君が「竹野ひとりにシテやられた。それに桜丘会はクラブチームのため練習量が不足している。練習量の差がそのまま試合に現われた」と大崎の勝因、桜丘会の敗因を分析していた。前半こそ7—5と接戦したが、後半は宇津野君の説明どおりになった。後半1分、2分30秒、6分と竹野が連続ゲットして10—7、その後15分まで互いに得点なかった。速攻の応しゅうで好ゲームとなりファンをうならせた。15分をすぎると桜丘会に疲れが出て大崎FWの速攻を防げず25分には15—12となり、大崎の勝利は決定的なものとなった。大崎は速攻の手をゆるめず、竹野、金田がダメ押しの3点をあげ桜丘会の反撃を断ち切った。

国体優勝チーム一覧表

回＼種別	一般男子	一般女子	高校男子	高校女子
第1回	全関西	豊中高女ＯＧ(大阪)	豊中中(大阪)	豊中女(大阪)
第2回	大阪クラブ(大阪)	大阪女子クラブ(〃)	天王寺中(〃)	茨木女(〃)
第3回	全九州	大阪クラブ(〃)	天王寺(〃)	春日丘(〃)
第4回	東京クラブ(東京)	〃	〃	岡山第一(岡山)
第5回	福岡クラブ(福岡)	青陵ＯＧ(〃)	足利(栃木)	春日丘(大阪)
第6回	大阪クラブ(大阪)	岡山クラブ(〃)	桜台(愛知)	青陵(岡山)
第7回	〃(〃)	青陵クラブ(〃)	〃	稲沢(愛知)
第8回	〃(〃)	北星クラブ(北海道)	〃	〃
第9回	東京クラブ(東京)	大阪クラブ(大阪)	済々黌(熊本)	寝屋川(大阪)
第10回	山口クラブ(山口)	稲沢クラブ(愛知)	桜台(愛知)	明善(福岡)
第11回	桜丘会(愛知)	明善クラブ(岡山)	〃	熊本市立(熊本)
第12回	大阪クラブ(大阪)	全愛知クラブ(愛知)	〃	静岡城北(静岡)
第13回	芝浦クラブ(東京)	寝屋川クラブ(大阪)	氷見(富山)	水海道第二(茨城)
第14回	大阪クラブ(大阪)	〃	鎌倉学園(神奈川)	熊本市立(熊本)
第15回	桜丘会(愛知)	愛知紡績(愛知)	中京商(愛知)	半田(愛知)
第16回	大崎電気(東京)	〃	兵庫工(兵庫)	水海道第二(茨城)

愛知紡が連続優勝

一般女子

▽一回戦

富山女高ＯＧ（富山） 4—3 高岡高ＯＧ（高知）

全岡山（岡山） 7—3 函館フレップ（北海道）

▽準々決勝

愛知紡（愛知） 12（6—1 / 6—2）3 富山女高ＯＧ（富山）

日体大（東京） 19（11—0 / 8—3）3 全秋田（秋田）

大洋デパート（熊本） 21（14—4 / 7—1）5 涌谷クラブ（宮城）

大阪クラブ（大阪） 5（5—0 / 0—3）3 全岡山（岡山）

▽準決勝

愛知紡 7（3—4 / 4—2）6 日体大

〔日体大〕		〔愛知〕
田岡	GK	篠崎
佐藤、中村	FB	山崎、宮本
尾田	HB	塚原
園、鈴木、村上	FW	磯部、青木、沢田
24	シュート	23
20	反則	26
1	7メートルスロー	2

◇速攻の愛知に対して日体大は遅攻で対した。先取点は前半4分日体大の村上があげた。愛知はゴール前で日体大の遅攻にまどわされ前半4—3とリードされた。後半になると愛知は速攻をかけ、ゴール前のカットインでチャンスをつくり得点した。1分宮本、5分、7分に塚原がシュートして6—4と逆転、日体大も12分鈴木、14分園が得点して6—6、愛知は18分磯部のシュートで7—6と再びリードし、そのまま逃げ込んだ。日体大は全く惜しい試合を失った。愛知のバックスをサイドにさそい込んで、中央からロングシュートしたが決まらなかった。ランパスでゴールに迫ってからシュートすれば勝っていたかもしれない。

大洋デパート 3（0—0 / 3—1）1 大阪クラブ

〔大洋〕		〔大阪〕
徳富	GK	大西(和)
千原、徳永	FB	森口、梶原
井手	HB	井上
今池、久連松、西村	FW	菅井、大西(邦)、中西、宮崎
21	シュート	17
25	反則	54
0	7メートルスロー	1

◇前半両チームとも堅くなり、無得点に終った。後半1分大洋は久連松のシュートで1点を先取、8分、9分には徳永の連続シュートで大阪を3—0と離した。大阪はすぐ追いかけ、9分30秒に大西

(邦)のゲットで3―1としたが、その後は大洋の堅いデフェンスを破れず涙をのんだ。大阪の反則54はどうしたことか。あまりにも多すぎる。もう少しフェアでやってほしい。

▽三位決定戦

日体大 5（1―1, 4―4）5 大阪クラブ
（注＝ともに3位）

▽決勝

愛知紡 6（2―0, 4―1）1 大洋デパート
（主審） 佐野（教大出）

◇大洋はやはり勝てなかった。大洋は関が抜けたため愛知紡を倒すには役者がひとり不足していた。西村、久連松、徳永が大いに健闘したが、愛知のバックスはあまりにも厚かった。大洋は後半4分に西村が1点をあげたのみ、愛知は前半磯部が7メートル・スローを2本決め、後半速攻をかけて大洋を引き離した。

大洋は八月の全日本総合選手権決勝についで愛知に2連敗。

兵庫高対函館工の泥ねい戦

兵庫工、粘りの初優勝

〔大　洋〕
GK 徳富
FB 千原　徳永
HB 井手
FW 今池　久松　西村
連

〔愛　知〕
GK 篠崎
FB 山崎　宮本
HB 塚原
FW 磯部　青木　沢田

愛知		大洋
24	シュート	17
19	反　則	21
2	7メートルスロー	0

高校男子

▽一回戦

桐生工（群馬）12（6―6, 6―5）11 小倉工（福岡）

盛岡第一（岩手）10（6―5, 4―3）8 洛星（京都）

墨田川（東京）10（4―3, 6―5）8 新居浜工（愛媛）

函館工（北海道）6（3―2, 3―2）4 氷見（富山）

▽準々決勝

桐生工（群馬）4（2―2, 2―1）3 中京商（愛知）

盛岡第一（岩手）3（3―0, 0―0）0 湯沢（秋田）

墨田川（東京）4（2―1, 2―2）3 下関幡生工（山口）

兵庫工（兵庫）4（2―3, 2―0）3 函館工（北海道）

▽準決勝

盛岡第一 7（3―5, 4―1）6 桐生工

〔盛　岡〕
GK 木村
FB 藤沢　橋元
HB 外川　内村　村川
FW 千葉　吉田　斎藤　北田　西村

〔桐　生〕
GK 永岡
FB 尾内　荒井
HB 寺崎　長島　松永
FW 大下　坂口（学）　春木　坂口（貞）　（田代）
（小芝）　（小川）

盛岡		桐生
17	シュート	20
30	反　則	33
0	14メートルスロー	0

◇桐生はよく走り、FWのコンビがよかったのでたちまち3―1とリードした。その後スピードが鈍り、盛岡の速攻で4―3と差をつめられた。前半タイムアップ寸前に坂口（貞）のフリー・スローがきれいに決まって5―3とした。後半になると盛岡は5分、9分に西村が連続ゲットして追いついた。さらに盛岡は攻撃の手をゆるめず20分斉藤、21分西村が決めて7―5と桐生を引き離した。桐生はすぐ22分春木のシュートでその差1点としたが逆転するにいたらなかった。桐生は後半スピードなく、ボールをキープしても盛岡バックスにつぶされたのが敗因。

兵庫工 8（5―3, 3―3）6 墨田川

〔兵庫工〕
GK 浅田
FB 石見　清水
HB 美濃部　藤原　堂脇
FW 村津　岩崎　長浜　山本　姫田

〔墨田川〕
GK 赤堀
FB 坂本　佐藤
HB 佐久間　石田　高田
FW 本望　北井　松田　重本　今井（武）

兵庫工		墨田川
24	シュート	25
23	反　則	17
0	14メートルスロー	1

◇兵庫は前半左サイドから中央にローリング戦法をとり、相手のデフェンスを引きつけポストプレーによって得点した。墨田川は2―0とリードしたが、ポイントゲッター北井がマークされてFWの動きが止まり、バランスがくずれた。そこを兵庫工がうまく攻めて着々加点、前半5―3と優位に立った。後半兵庫は脚力を生かして3分姫田、7分岩崎がゲットすれば、墨田川も北井、松田がシュートして7―5と追ったが、この2点差をひっくり返せなかった。兵庫はポストプレーと早いアタックが勝因。墨田川はバックのタマ出しが悪く、これが致命傷となった。しかも攻撃が断片的であり、兵庫デフェンスでのドリブルがまずかった。

▽三位決定戦

墨田川 9（6―4, 3―5）9 桐生工
＝引き分け、ともに三位＝

▽決勝

兵庫工 10（6―2, 4―1）3 盛岡第一
（主審） 中沢（芝浦工大出）

前半で早くも6―2とリード，優勝確定と喜ぶ兵庫工のハーフタイム

〔盛　岡〕
GK 木村
FB 藤沢　橋元
HB 外川　内村　村川
FW 千葉　吉田　斎藤　杉田　西村（北田）

〔兵　庫〕
GK 浅田
FB 石見　清水
HB 美濃部　藤原　堂脇
FW 村津　岩崎　長浜　山本　姫田（梶原）

兵庫		盛岡
27	シュート	23
27	反　則	17
0	14メートルスロー	0

◇兵庫はよく走った。姫田、山本のFWコンビはすばらしく、ラン・パスで盛岡のゴール前に殺到し、左サイドから攻撃して盛岡を破った。試合は前半で決まったが、盛岡は前半6分から22分まで無得点だったのはどうしたことか。兵庫のデフェンスが予想以上に厚くどうしても破れなかった。後半は兵庫のペース、早いアタックで盛岡の出足を押えたのがよかった。

水海道二高が二度目

高校女子

▽一回戦

県尼ヶ崎（兵庫）7（2－2、5－0）2 室蘭清水ヶ丘（北海道）

富山女（富山）7（3－2、4－2）4 花巻南（岩手）

▽準々決勝

静岡城北（静岡）14（7－3、7－1）4 県尼ヶ崎（兵庫）

秋田和洋女（秋田）10（3－3、7－4）7 新居浜東（愛媛）

水海道二（茨城）11（4－2、7－2）4 徳山（山口）

富山女（富山）9（6－3、3－1）4 菊池農蚕（熊本）

▽準決勝

静岡城北 7（1－2、3－2、2－0、1－0）4 秋田和洋女

〔静岡〕		〔和洋〕
川崎	GK	佐藤
鈴木・纐纈	FB	山口・新山
林	HB	斎藤
山本・黒川・吉川	FW	太田・須田・信太
（加藤）（亀山）（山口）		（伊藤）（阿部）（武田）
30	シュート	11
27	反則	32
3	7メートルスロー	1

◇城北は前半7メートルスローを2本失敗したり、パスミスをくり返してチャンスをのがした。和洋は地元の声援に気をよくして前半リードし、後半も城北を圧倒したがついに延長となった。延長になると和洋はセット・プレーにこだわったため速攻を忘れた。これが大きな敗因となり、城北の速攻に敗れた。

水海道二 9（4－1、5－0）1 富山女

〔富山〕		〔水海道〕
松井	GK	鈴木
藤坂・山崎	FB	渡辺・横倉
井沢	HB	川田
黒田・堀・大沢	FW	田村・滝川・笠原
（吉倉）（大浦）（永瀬）		（後の上）（香山）（木村）
14	シュート	36
32	反則	12
1	7メートルスロー	2

◇すべての点で水海道がすぐれており、試合はワンサイドに終った。水海道は渡辺にボールを回してポストをあけ、田村、滝川、笠原の三人がポストを使ってのカット・イン・シュートで富山を押えた。富山は水海道のセット・オフェンスについて行けず、これを防ぐのに懸命だった。

▽三位決定戦

富山女 5（1－2、4－1）3 秋田和洋女

▽決勝

水海道二 4（2－0、2－3）3 静岡城北

（主審）松本（教大出）

〔静岡〕		〔水海道〕
川崎	GK	鈴木
鈴木・纐纈	FB	渡辺・横倉
林	HB	川田
山本・黒川・吉川	FW	田村・滝川・笠原
（加藤）（亀山）（山口）		（後の上）（香山）（木村）
14	シュート	18
18	反則	39
1	7メートルスロー	0

◇前半静岡の速攻はよかったが、水海道バックスの厚いカベを破れなかった。水海道は前半2分滝川、11分田村のシュートでリードした。後半静岡は3分に吉川がシュート、7分にも吉川が7メートル・スローを決めて追いついた。その後水海道はスピードがなかったが、ポストプレーが成功して8分川田、10分渡辺（これはGKのミスに恵まれた）のシュートで静岡をふり切った。

とにかくおもしろいゲームだった。両チームともベストをつくし、息を抜くヒマがないほどの熱戦。城北は前半もう少し慎重に攻めていたら無得点に終ることはなかったろう。同じ2点差でも点を取っての2点差ならそれほどあわてなくてもいい。それが1点もとれなかったところに静岡のあせりがあった。名門同士の対戦にふさわしいゲームといってもいいのではないか。

富山女高対秋田和洋女戦から

豆ニュース

馬場副会長の「私とスポーツ」

日刊スポーツ大阪版の連載読物「私とスポーツ」の欄に馬場太郎副会長が短文を寄せていた。（12月12日付け）。それを要約すると次のようなものである。

「私が丸亀中学に入学したのは大正三年。部としてこの学校にあったのは柔道、剣道、銃剣道、野球、庭球、ボートの六種目で、庭球部には大先輩の津島寿一さん（東京オリンピック組織委員長）がいた。野球をやっていた関係で四年生のとき野球ボールの遠投競技があった。そして90メートル以上投げて優勝した。日本体育会体操学校（現在の日体大）に進学してから重量あげ、ハンドボールに興味を持ち、野球はやめた。現在は全日本学生重量あげ協会副会長。日本ハンドボール協会副会長であり、微力ながら普及に力を注いでいる」

総評

桜丘会しのぐ

若さの大洋デパート

ベテランぞろいの大崎電気

一般男子

大崎電気が待望の優勝をとげた。チーム結成後まだヨチヨチ歩きのこの大崎電気が全日本総合で2位、国体1位の抜群の成績は実にみごとである。決勝で昨年熊本国体の優勝チーム桜丘会を破ったのだから文句のいいようがない。しかし大崎電気の選手をみると優勝は決して不思議ではない。世界選手権に出場した竹野以下宮原(藤)、田口、村上、福本、今野のベテランぞろいである。ようやく〝大崎電気の天下〟が訪れたのだ。速攻では芝浦工大と比べて甲乙ない。別表のシュート率をみてもシュート128、得点55、率・430の高率をあげている。とくに決勝の桜丘会戦ではシュート41、得点18、桜丘会よりもシュート成功率は下回っているが、シュート数では桜丘会を押えている。これが優勝につながった。とくにエース竹野は4試合、シュート50、得点24、シュート率・480の高率をマークし、第一人者の貫録十分である。桜丘会戦では大崎電気の得点18のうちひとりで9点をあげ、大崎に優勝をもたらした。竹野がこのすばらしい成績をあげられたのはCF宮原(藤)のカゲの力が大きい。そればかりではない、小谷内、杉山、井上とのコンビがよかったからである。FWの総合戦力もあるが、バックスの活躍もまたすばらしかつた。

▽…桜丘会は惜しくも2連勝を逸したが、クラブチームとしては最高のものである。大崎電気に劣らぬ力をもっている。エース高村、山田、服部の世界選手権組をはじめ浅野、牧野、豊島、堀のベテランがそろっている。桜丘会の宇津野君は「決勝で負けたのは竹野と高村の差、練習量の差です」といっているように、練習量の差がすべてだった。高村は竹野に次いでシュート成功率・436をマークしている。チームのシュート成功率をみても大崎電気をはるかに上回っている。決勝戦だけを例にとってみても大崎電気よりいい。それにもかかわらず敗れたのは練習量の差というほかはない。これはクラブチームの宿命でもある。とはいうもののクラブチームが毎年決勝に進むというのはやはりりっぱなものである。

シュート成功率

	大崎電気			桜丘会		
	シュート	得点	率	シュート	得点	率
決勝	41	18	.439	29	13	.448
準決勝	30	11	.367	27	12	.444
準々決勝	27	12	.324	27	14	.519
2回戦	30	14	.467	35	18	.514
計	128	55	.430	118	57	.483

	竹野			高村		
決勝	18	9	.500	6	3	.500
準決勝	13	6	.462	10	4	.400
準々決勝	7	2	.286	9	4	.444
2回戦	12	7	.583	14	6	.429
計	50	24	.480	39	17	.436

期待はずれの全神奈川

▽…大阪クラブは関西学連の現役、OBのクラブチームだが、準決勝で大崎電気を苦しめたのはすばらしかった。前半6―5と1点差で食い下がり、後半互角の勝負をいどんだ。文字どおりの善戦であり、〝大崎電気辛勝〟の方がピッタリするくらい。

井上(日体大出)をはじめ市場、村中、荘林、東の好技は見のがせない。氷見クラブの善戦も光かった。高校出のチームでありながら、ベスト4に残ったのはおどろいた。努力の結晶であろう。準決勝で桜丘会に12―10と大接戦した。

▽…清商クラブ、京都クラブ、全岩手、山口クラブがベスト8にはいった。地方のチームが余暇をハンドボールに打ち込んで国体に出場し、この成績をあげたのは実にたのもしい。期待はずれだったのは全神奈川である。芝浦工大出の塩川、尾藤、村上、武井、明大の浅野を加えた豪華メンバーだったのに……。それよりも全神奈川を破った住友化学菊本を賞めたい。毎年全日本総合、国体に出場し、実業団チームのために活躍している。

楽しみのもてる日体大

一般女子

予想どおり愛知紡と熊本大洋デパートが決勝で顔を合わせた。期待したこの決勝も愛知紡のワンサイドに終り2連勝した。若さの大洋デパート対ベテランの愛知紡、結局は実業団チームとして長い歴史を持つ愛知紡が、八月の全日本総合に次いで二度までも大洋を押えた。沢田、青木、磯部の好プレーヤーがスピードにのっためざましい活躍が勝因である。大洋デパートは名手といわれる関の欠場で攻撃力が半減したのは痛かった。西村、徳永、久連松の若手トリオががんばったが、愛知紡の前に屈した。この決勝戦だけをみると、やはりそこには力の差が大きくひそんでいた。しかし愛知紡には年令的なハンデキャップがあり、いまが絶頂期である。これに対して大洋デパートはこれからのチームである。来シーズンは女子実業団の分布図が大きくぬり替え

られるのではなかろうか。
▽…日体大がよくやった。準決勝で愛知紡を苦しめたが力及ばず敗れた。前半4—3とリードしたときは実にすばらしかった。結局はランパスのまずさで愛知ゴールに殺到できなかったのがつまずきの因となった。大いに楽しみの持てるチームである。一般女子はこの三チームを除くとそれほどこわいチームはいない。3位になった大阪クラブは大西姉妹の奮闘がめだった。

大崎、練習量で
絶頂期の愛知紡

中京商実力やはりNO・1

高校男子

まず優勝候補の筆頭で連勝をめざす中京商が準々決勝で桐生工に敗れる番狂わせがあった。当日は雨上がりでグラウンドは水浸し、ちょうど田んぼの中でゲームをやっているような状態だった。このため中京商は得意の速攻が全く出ず、桐生工の善戦で苦しいゲームを続けた。スコアは4—3と1点差、桐生工はドロンコ試合で幸運な勝利をつかんだといっていい。

優勝した兵庫工はチャンスをうまくつかむと速攻をかけて得点した。それに早いアタックで相手の出足を止め、カットインプレーの連続だった。このファイトが優勝に結びついた。かなりスピードを持ち、それによく走り回った。とくに姫田のコントロールのいいシュート、山本の正確なシュートはすばらしいものがあった。勝つべくして勝ったといえる。
▽…2位の盛岡第一は準決勝で桐生工を7—1の大差で破った。坂口(貞)、坂口(学)、田代、春木、大下のFW五人男は脚力があり、ここまでやるとは思わなかった。それが一試合ごとにピッチをあげ、決勝戦まで勝ち進んでしまった。これは努力の現われであろう。墨田川がチーム結成いらい全国大会で初めてベスト4に残った。東京のレベルは全国的にみてかなり低いが、関東選手権で優勝していらい大いに自信をつけた。北井、今井、重本、松田、本望のFWは体力があり、なかなかたのもしい。とくに北井は伸びる素質が十分ある。墨田川がここまできたのは松本先生(教大出)の力に負うところが大きい。
▽…桐生工は小柄だが、うま味のあるチームだ。中京商を破り、墨田川と引き分けて3位になったのはほめていい。下関幡生工、函館工はいま一歩というところで敗れたが、好感の持てるチームだ。
▽…この大会でベスト4に東日本が3チーム、西日本が1チームの数字が出た。東日本のレベルが大幅に伸びてきたことを証明するものだ。不幸にして中京商は準々決勝で姿を消したが、絶好のコンデションだったら中京商は決勝戦まで進んでいたかもしれない。力はやはりNO1といってもいいのではないか。

光る秋田和洋女の善戦

高校女子

ベスト4に静岡城北、秋田和洋女、水海道第二、富山女が残ったが、力の点では静岡城北、水海道第二がずば抜けていた。しかも名門同士である。攻撃力、守備力とも差がなく、その日の出来ひとつにかかっていた。水海道の滝川、田村、城北の吉川、山本はよくがんばった。城北は東海予選で半田(愛知)を破っての出場であり実力はある。水海道も城北に劣らぬ力があり、決勝戦は1点差を争う好ゲームを展開した。
▽…秋田和洋女がベストに残るとは思わなかった。地元の利もあるが、準決勝で静岡城北を圧倒し、九分九厘まで握った勝利を惜しくもものがして延長戦となった。城北と延長戦をやるほどの力があったのには驚いた。東北予選で名門涌谷(宮城)を破り、東北選手権を獲得している。FWの信太は優秀なプレーヤーだ。来シーズンには実業団チームの一員として活躍するだろう。
▽…菊池農蚕(熊本)が準々決勝で富山女に9—4と差をつけられて敗れたのは番狂わせ。熊本市立高を倒すほどの力を持ちながら惜しい敗戦だった。富山女は有磯高(富山)というライバルを持ち、練習に練習を重ねての出場であり、みごとな試合をみせた。

こぼれ話

いくら親友でも勝負はゆずれぬ

▽……湯沢の高校男子のベスト4に盛岡一高と墨田川高が残った。本部席には墨田川高の松本先生と岩手県体育課の箱崎先生(最近まで盛岡一高に勤務)ががんばっている。このふたりは教育大の現役当時は竹馬の友だった。若崎審判員が「墨田川と盛岡一高が決勝で対戦したら、いったいどういうことになるんだ」と早くも心配顔。松本先生いわく「そりゃー墨田川が勝つさ年期の入れ方が違う」。箱崎先生も負けずに「やってみなけりゃわからんよ。いくら親友でもこればかりはネ」。結局墨田川が準決勝で負けたので松本先生は「ケンカせずにすんだ。でもほんとうは墨田川—盛岡一高で決勝戦をやりたかった」。
▽……女子高校の秋田和洋女は地元の応援で健闘した。本部席にいた中沢審判(芝浦工OB大)も大いに声援した。それもそのはず。中沢君はこの二、三年ヒマをみては秋田和洋女をコーチし、やっと念願の国体に出場、しかもベスト4に残った。「ほんとうによかった。でもこれで満足はしていない。やはりインターハイで全国優勝しなけりゃだめだ。この願いはかならず達成させてみせます」ともすごい張り切り方。

トップクラスのスカウト戦

＝楽書帖＝　第八回

鷲尾武治

▽……女子実業団は愛知紡、レナウン工業、熊本大洋デパート、大崎電気の4チームはすでにご存じのことだが、37年春にはまた2チームが生れる。それはレナウン工業が立川工場（東京都立川市）と大阪工場（大阪市）にチームをつくる。すでに立川工場の監督には芝浦工大の池田マネージャー（37年3月卒業）が内定し、大阪工場は寝屋川高校の中出先生が一年間面倒をみることになっている。そうなると37年4月には東京3、愛知1、大阪1、熊本1の女子実業団チームになる。東京に3チームできたのは大崎電気の渡辺社長の努力によるものだが、「3チームでは不便だから、ぜひ4チームにしたい」と張り切っている。その1チームの白羽の矢が「ジューキ・ミシン」に当てられ、レナウン工業の鈴木さんの力を借りてジューキ・ミシンの社長の説得にかかっている。渡辺さんは「4チームになれば関東女子実業団リーグ戦ができる。これが楽しみです。春と秋、二回のリーグ戦で女子のレベルを高めたい」と希望はなかなか大きい。

▽……女子実業団チーム結成の内情をくわしく書くと、大崎電気の渡辺社長から叱られるが……。東京に女子チームが3チーム、ジューキ・ミシンが参加すると4チームになる。いったい選手はどこから集めるのか。いろいろ調べてみたら水海道第二、栃木女、静岡城北、有磯（富山）、富士宮（静岡）、秋田和洋、山梨、太田第二（茨城）と広い地域にわたっている。なかでも水海道第二、栃木女、静岡城北の三校は「供給源の御三家」である。バレーボール、バスケットボールのスカウトは激しいが、女子ハンドボール界もいまや選手のスカウトではトップクラスとなった。

▽……日体大が韓国に遠征した。協会創立いらい全日本チームの世界選手権参加に次いで二度目である。韓国には日体大のOBが多いので、特に日体大を招待したものである。海外遠征に恵まれなかっただけに、こんどの遠征はうれしいニュースだ。しかも招待先が隣の韓国だからなおさらのことである。日韓交渉が行きづまっているときだけに、スポーツチームの訪韓はホットニュース。ただ遠征中に関東学生リーグ戦があり、二軍チームが出場し善戦していたのは立派だ。リーグ戦も大事だが、海外遠征も大事、日体大は選手の数がないから〃二足のワラジ〃をはいたわけである。海外遠征してどんどん力をつけるのが、オリンピック種目になる近道だと思う。

▽……関東学生リーグ戦に日大が加盟し、さらに女子の部が復活。日体大と日女体短大の2チームだが、よくここまできたと感心する。

時評

大学OB連よ 奮起せよ

これではシロウトに恥かしい

▽ーハンドボールを全く知らない人が、ハンドポールに首を突っ込むとものすごいファンになる。これはハンドボール界にとってはうれしいことである。最近こういう人が増えてきたのはよいことだ。そうしてチームを編成してくれるのだから大したものである。一人でも多く、一チームでも多くなることが球界発展の基盤となる。それにひきかえ大学出の人にはシロウトほどの情熱がないのには驚く。これはどうしたことか。少なくともハンドボールをやった人なら、高校、大学といわず大いに球界発展のために力を出してほしい。クロウトがなまけ、シロウトが精を出す。これでは全く主客転倒である。

▽ーシロウトの第一号は大崎電気を生んだ渡辺社長である。この渡辺社長がレナウン工業の鈴木社長を口説き落としてレナウン工業チームをつくらせた。鈴木社長はハンドボールを見たことがないという。しかも大阪工場にもチームを編成させ、来シーズンから球界にお目見えする。九州に眼を向けると大洋デパート（熊本）がそうである。熊本県協会の藤田八郎氏の応援で大洋デパートの山内藤吉氏（人事課長）がチームを編成した。山内さんは〃シロウト第三号〃ということになる。山内さんは「ハンドボールの発展のためなら大いにやる。とにかくわたしはシロウトだから……」という。大洋デパートの山口社長も「ハンドボールのために……」と大いに気をはいている。この山口社長もハンドボールを知らない。このようにファンがふえているのに……。

▽ーいったいハンドボールをやってきた大学卒の連中はどんな気持でいるのだろうか。シロウトに対してはずかしいと思わないのだろうか。芝浦工大、日体大、教大のOBはハンドボールのために骨身を惜しまずやっている。名門の早大、慶大、明大、関学、関大のOBたちはもっと奮起してほしい。ただ学生のリーグ戦だけやっていればいいという考え方なのだろうか。自分のスポーツが可愛いくないのだろうか。チームを編成するぐらいの気力がないのだろうか。「十一人制では人が集まらない」と理屈をいうかもしれない。それならば七人制でもいいではないか。七人制の方がむしろ人が集まりやすい。このへんでひとつ大いに発奮してもらいたい。

×　×　×　×　×　×

どこか眼が違う苦労した大人

レナウン工業社長
鈴木達雄

今号も先号にひき続いて人物紹介の第二回。長い間待望されていた女子実業団チームが今年は大崎電気、大洋デパート、レナウンと相次いで誕生、女子球界も一段と球趣をもり上げてきました。そこでスポット・ライトを女子実業団チーム結成に一肌ぬいだレナウン工業の鈴木達雄社長にあててみました。

×　×

あん蜜の食べ歩きより健全

女子実業団にレナウンチームが生まれた。これは大崎電気の渡辺社長がレナウンの鈴木社長を口説き落としたものである。それで秋田国体が終ってから、鈴木社長にインタービューした。

——女子チームをつくったのはどういう動機からですか。

鈴木　いやー。別になかったのですが、大崎電気の渡辺君が「女子チームをつくれ。とてもイイゼ」なんていうもんだから……。あまり熱心にいうからそれならというわけでネ。渡辺君とは五年ぐらい前からの友人だし、アイツのいうことなら間違いないからですよ。

——そんな話はいつごろから

鈴木　ことし（36年）の正月のことだった。

——ところで鈴木さんはハンドボールをご覧になりましたか。

鈴木　それがですよ。ことし（36年）一月の全日本室内総合選手権を見たのが初めてなんです。それもテレビで……。スポーツにはあまり関心がなかったのは事実です。

——チームをつくって、よかったと思いますか。

鈴木　バレーボールやバスケットボールでは既成チームが多い。ハンドボールは発展途上にあるのでいいと思った。それにこれからの若い人、男でも女でもスポーツでからだを鍛えることがいちばんいい。勤務が終って映画をみたり、あん蜜を食べて歩くよりは健全だから……。

☆　☆　☆

▽…かくしてレナウン工業チームは誕生し、来春までに東京工場チーム（東京都立川市）大阪工場チーム（大阪市）が名乗りをあげる。鈴木社長は東京生れで横浜育ち、芳紀（?）まさに51歳。横浜一中—一高—東大の秀才コースを歩き東大卒業と同時にレナウンに入社した。当時大学出はサラリー60円〜80円の時代に、サラリー28円のレナウンに籍をおいた。レナウンは昔風にいうならメリヤス工場。そのころからスポーツには全く縁がなかったというからこんどのチームづくりには驚いた。しかし勝負ごとは好きで、マージャンの腕は大崎電気の渡辺社長が認めているほどだ。マージャンのほかに〃朝寝坊〃、〃庭いぢり〃が趣味（?）。

カゲの功労者塩川監督

▽…性格温順、品のある英国型ジェントルマン、この人がチームをつくってからたった一度だけ驚いたことがある。レナウンチームが日体大に負けたとき、監督の塩川君（芝浦工大出）が選手を集めて〃ビンタ〃を飛ばした。選手はだまって下を向いた。これをみた鈴木社長は驚き、すぐ塩川君を呼んで注意した。あとで鈴木社長は「ほんとうに驚いたんだ。普通の人ならすぐ文句もいうだろうが、スポーツ選手はやはりどこか違う」とほめていた。これが鈴木社長をハンドボールファンにした理由のひとつでもある。塩川君は「陰の功労者」かもしれぬ。選手たちは3時ごろから練習にはいる。課長や工場長はいやな顔をするらしいが、これは社長命令（?）だからどうにもならぬ。また鈴木社長は塩川君を監督に迎えたのがよかった。苦労した人はどこか眼が違う。この塩川君も非常に熱心で、インターハイ、全日本総合選手権、国体には最後まで残って優秀な選手をチェックして社長に報告する。大崎電気の渡辺社長が眼をつけた選手は、すでに塩川君が話を進めていたというケースがときどきあった。「鈴木さんはいい監督をさがしたものだ。うらやましい。鈴木さんの人徳だね」と渡辺さんがいう。

▽…最後に鈴木社長の抱負をきいてみた。

「当面の敵は大崎電気（女子）ですよ。大崎電気を倒すチームにしたい。そして国体、全日本総合、全日本室内の三大タイトルを獲得するのが夢です」。

×　×

三度目の王座獲得
同大の善戦もおよばず

第五回全日本学生ハンドボール王座決定戦は、十一月二十三日、東京小石川球技場で東日本代表芝工大と西日本代表初陣の同志社大との間で争われた。前日の豪雨でコンディションが危ぶまれたが、当日は絶好の日和となり北西風は冷たく吹きつけた。東西学生界最高峰の決戦をみようと約五〇〇〇の観衆がつめかけた。試合は同大が遅攻作戦で芝工大を苦しめたが、個人技にまさる芝工大が速攻で押し切り、三度目の優勝をとげた。なお芝工大はこれで本年度の全日本学生、全日本総合、学生王座と三タイトルを独占した。

▽王座決定戦

芝工大18（10—6 / 8—7）13同志社大

▽レフェリー佐野和夫（教大出）

反	得	S	〔同志社〕		〔芝工大〕	S	得	反
0	0	0	奥本	GK	谷	0	0	0
3	0	0	東尾	B	勝倉	0	0	10
3	0	0	林	B	久保	0	0	11
2	0	0	河内山	B	中村	0	0	12
6	0	0	矢柴	B	斎藤	0	0	7
7	0	1	中江	B	野村	0	0	2
2	1	1	鳥井	FW	佐藤	7	6	0
0	3	4	石橋	FW	金山	2	1	1
1	2	4	大曽根	FW	北村	11	6	3
1	5	14	今藤	FW	間	3	2	3
1	2	2	宮野	FW	越智	5	3	1
			村上	交代	青木			
			若宮	交代	福島			
26	13	26		計		28	18	50
		2		14mスロー		2		

〔試合経過〕 午後1時30分、風下に陣した芝工大の先攻で熱戦の火ぶたが切られた。30秒芝工大FC北村からのパスを受けたRW佐藤が右30度から楽に抜き左下コーナーに倒れ込みながら鮮やかなシュート、まず幸先よい先取点をあげた。続いて4分、芝工大は中央ポストを生かしたLI間が左下コーナーに2点目。5分同大FC今藤からのパスをLW宮野クリーンシュート1点をかえす。だが芝工大すぐ鮮やかな速攻を展開してFC北村3点目。同大もFC今藤の切れ味のよいジャンプシュートが右上にきまって2点目をあげる。7分芝工大14メートルスローを中央で得、LW越智が右下にきめて4点目、さらに12分、RW佐藤が右60度からのマンツーマンできれいに抜き、フェイントシュート左下に入って5点目。ここで大きく離そうと芝工大は速攻の猛攻をかける。13分、FC北村が右サイドを大きく回り、中央からの好パスをうけマンツーマンから倒れ込み右上にきめて6—2と開いた。同大は15分FC大曽根が芝工大バック陣を前において強引なジャンプシュートを右上にヒット、6—3と追いすがった。芝工大はあくまで速攻で勝負しようと強気にでたがややハンドリング悪く、ミスも目立ち、クリーンプレーは少なかった。しかし、ゴール前のオープン攻撃は同大の反則を巧みに利した早いパスワークでディフェンス陣を撹乱し、細くダッシュのきいたFWの動きはマンツーマンにも冴えをみせていた。一方の同大は戦前の予想どおり遅攻一点ばりでマンツーマンでは堅い芝工大の防御を破れなかった。速攻チャンスも自ら放棄し、今藤にボールを集める遅攻作戦は風上に立ちながら不利をまねいているようなものだった。18分、ラインオーバーから芝工大14メートルスローを越智が左下に7点目。中盤得点の渇した同大は23分今藤が左50度から強引なジャンプシュートを右上に放ち4点目を叩き出す。やや焦りのみえたシュートだった。このあと芝工大はたちまち北村が左上に8点目同大も今藤のロングシュートをきめ、25分芝工大が金山からのリターンパスを北村がきれいにさばいて右上9点目、26分同大RI石橋がレフトハンドを利し左上に6点目、27分芝工大佐藤が右30度のジャンプシュートを左上と得点の応酬があったが結局10—6と芝工大リードで前半を終った。

▽前半風上をとった同大はLW宮野が左サイドから突っ込み、芝工大のディフェンスを押さえて今藤に返し、得意なコースからロングシュートを再三ねらったが、早くも見破られ、この成功率は少なかった。しかし、芝工大が今藤のマークに気をとられている間に、宮野、大曽根、石橋が鮮やかなポイントをとっている。同大が生きる動きはここにあったのではなかろうか。芝工大お家芸の速攻は不調にみえたが、ゴール前のフォローとパスワーク、そしてマンツーマンはすばらしい切れ味をみせ、完全なノーマークシュートでポイントを上げていた。

▽後半5分、同大はRW鳥井が中央の切り込みに成功し、右下に7点目をきめて3点差とした。いよいよ試合は白熱化したと思わせたが、同大はいぜん、遅攻ペースを崩さず、ボール保護時間は芝工大に比し、はるかに長い。遅攻では間渇的得点が続く必要があるが、前半6分〜23分の17分間にわずか1点であることは遅攻作戦の誤算であろう。

▽7分芝工大佐藤が中央からのマンツーマンで左上にきめれば、1分後同大今藤が中央からきめて返し、続いて、芝工大は同大GK奥本のボール出しをカットし、早く廻して、間が左に12点目を上げた。こうした、ちょっとしたミス（向かい風のためボールが落ちた）がすぐに得点に響くからこわい。10分芝工大北村が単身ドリブルで中央から左下にきめて13—8と開く芝工大はドリブルによるマンツーマン、シュートがいつになく多いが、これは速攻にブレーキをかけることになり、着々加点はしたものの、中途半端な攻撃とみられた。これからでも、芝工大の不調はあきらかで、同大がこの虚をつけばもっと接近戦が期待できただろう

▽同大は8分から10分間、芝工大は10分から10分間、得点上の中だるみがあったあと（両チームの好ディフェンスが続いた）同大石橋が長いボール廻しから、切り込みに成功、9点目を上げれば、すぐ芝工大はRI金山が中央から高い投法で1点を返した。同大が芝工大の速攻と加点防御のため、用い

るせっかくの遅攻もペースに乗らず、ボールのパスがワンタイミング遅れフォローの出足がディフェンスに食われ、単発の動きでは持てる力の出しようがないといった状態であった。21分芝工大の反則から14メートルスローを得た同大は芝工大GK谷のファインプレーで今藤の強烈なシュートも右下コーナーに押さえられ、4点差とつめる好機を逸した。

▽タイムアップ前10分間の両チームの攻防は一段の活気をみせ、試合に多大の興味を与えた。22分芝工大北村が左60度からのジャンプシュートを左上に放って、15－9とすれば、同大は宮野が好フォローで左下に10点目を上げ、差はぜん5点。だが同大はどうしても追いつけない。また芝工大の速攻も完調とはいえず、むしろ遅攻とも思える動きで、ただシュートチャンスを有効につかみ、確実なシュートが強豪の片鱗をきらめかせていた。

▽24分同大今藤が左サイドから11点目、25分芝工大佐藤が初めての直接フリースローポイントで16点目。27分同大曾根ポストシュートで12点目。直ちに芝工大佐藤右サイドから左コーナーに打ち込んで17－12と追い撃ち、5点差は縮まらない。28分同大14メートルスローを石橋が左下にきめたが、タイムアップ寸前、芝工大越智が18点目をあげて、18－13でゲーム終了。

▽後半の得点経過からみても、同大の加点集中時には芝工大も同じように加点し、完調ならずとも、同大の遅攻ペースにまきこまれず、また速攻に固執せず、臨機応変に終始したことが前半の4点差をより有効にしていた。

〔技術評〕 攻撃面は多くの大会で身につけた、冴えた個人技を全員むらなく持っている芝工大に一日の長があり、FWのキメの細かい動きはすべて攻撃武器となっていた。同大は前半、今藤にボールを集めすぎたため、後半は作戦をかえ、一応成功はしたが（8－7）前半の失敗をカバーするまでにはいかなかった。

▽防御面ではやはり芝工大の前進ディフェンスは遅攻に対して成功であり、とくに前半今藤のみに頼る同大のペースを完全につぶしていた。しかしGK谷の好守がありはしたが、13点を許したことは、同大の強さをしめす反面、芝工大のディフェンス方法に貴重な資料を与えたことであろう（春季リーグ以来、全日本総合で、桜丘会大崎電気にそれぞれ14点を取られているのが最高であった）

両チームとも若手の多いスターティングメンバーであり、今後の育成が期待できる。

（岡村）

学生王座成績一覧表

回数	開催年	スコア	場所
第1回	昭和32年	芝浦21—11関学	
2回	33年	関学12—10芝浦	
3回	34年	芝浦24—17関学	西宮野球場
4回	35年	関学12—11芝浦	
5回	36年	芝浦18—13同志社	小石川サッカー場

（優勝　芝浦工大3回　関学2回）

東西対抗成績一覧表

回数	開催年	スコア			場所
第1回	昭和23年	東	7～4	西	西宮
2〃	24〃	西	4～3	東	西宮
3〃	25〃	西	10～4	東	駒沢
4〃	26〃	西	10～5	東	西宮
5〃	27〃	東	10～6	西	西宮
6〃	28〃	西	12～10	東	西宮
7〃	29〃	東	14～9	西	神宮
8〃	30〃	東	17～7	西	西宮
9〃	34〃	東	18～16	西	国立競技場
10〃	35〃	西	19～17	東	西宮
11〃	36〃	西	14～10	東	服部

（通算　西軍6勝　東軍5勝）

西軍、速攻で二連勝

全日本学生東西対抗　東軍同点が精いっぱい

第十一回全日本学生選抜東西対抗戦は12月3日午後2時から大阪府豊中市服部緑地陸上競技場で行なわれた。西軍は東軍に一度もリードを許さず14－10で快勝した。これで対戦成績は西軍6勝、東軍5勝となった。なお前座試合は三国丘高（大阪）が秋田国体の優勝チームの兵庫工高（兵庫）を破った。

（観衆二千人）

▽前座試合

三国丘高（大阪）13（7－6、6－5）11 兵庫工高（兵庫）

▽東西対抗

西軍 14（8－5、6－5）10 東軍

▽スロー・オフ東軍

▽審判　村田（日体大出）

（西軍）

	氏名	所属	S	得	反
GK	香山	関学	0	0	0
FB	岩村	関大	0	0	2
FB	熊本	関大	0	0	2
HB	服部	関学	0	0	1
HB	日留田	関大	0	0	4
HB	安部	関学	0	0	6
FW	荘林	神大	5	4	0
FW	石橋	同志社	7	4	2
FW	高村	関大	11	3	3
FW	今藤	同志社	8	2	1
FW	藤井	関学	3	1	4
Sub	林	同志社	0	0	4
Sub	中江	同志社	0	0	2
Sub	浅野	京大	1	0	0
	14メートルスロー		2		
	計		35	14	31

（東軍）

	氏名	所属	反	得	S
GK	青砥	中大	0	0	0
GK	谷	芝浦	0	0	0
FB	勝倉	芝浦	13	0	0
FB	福士	中大	1	0	0
HB	蓮井	日体	3	0	0
HB	木本	慶大	6	0	1
HB	清水	明大	1	0	0
FW	佐藤	芝浦	2	2	10
FW	吉村	法大	0	2	5
FW	大脇	中大	1	1	1
FW	羽上田	中京大	0	1	4
FW	伊藤	中京大	1	0	1
Sub	北村	芝浦	0	2	6
Sub	横野	明大	0	2	3
Sub	高橋	東北学院	0	0	0
Sub	森川	中京大	0	0	0
	14メートルスロー			4	
	計		28	10	31

（評）スロー・オフ直後の東軍ボールを西軍FWが激しく当たってカットし、そのまま東軍ゴール前に持ち込んだ。そのプレーは実にみごとなもので、石橋が中央からシュートして1－0とリードしたこの間わずか1分30秒。これで西軍FWは活気づき、東軍バックスをゆさぶった。6分高村が単身ドリブルから中央を割ってゲットし2－0とした。西軍FWは予想に反して速攻の連続、ゴール前のローリング・パスはちょうど東軍のお株を奪った形。東軍バックスはすっかりペースを乱した。東軍FWは持ち前の速攻がみられずもたついていた。7分佐藤が右サイドから、9分北村がノーマークからそれぞれ決めて2－2と追いついた。西軍は13分今藤の14メートルスロー、15分荘林のロングシュートで4－2とした。東軍バックスは少しもいいところがない。それに東軍FWはせっかくボールをキープしても雑なシュートやハンドリングのまずさでチャンスをつぶした。しかも両サイドの攻撃を忘れ、無理に中央から打ったので西軍GK香山の好守にはばまれた。東軍FWはあせりが出て自己のペースを忘れていたようだ。後半4分東軍は羽生田のシュートで三度び6－6と同点にしたが、すぐ今藤にゲットされた。東軍は同点にするのが精いっぱいで、とうとうタイムアップまで一度もリードできなかった。北村、佐藤がマークされてはどうすることもできなかった。それに東軍は4本の14メートルスローを佐藤が1本決めただけで3本ミスしたのは大きくひびいた。東軍は前後五度も同点に追いついたが、調子に乗る西軍FWの前に屈した。西軍の勝因はFWの健闘もさることながら、GK香山の水ぎわ立った守備によるところが大きい。逆に東軍は力を十分出し切れず、コンビネーションのまずさをばくろしてしまった。東軍が青木（日体大）、小林（日体大）、越智（芝浦工大）、金山（芝浦工大）の優秀な選手を送り込んでいたら、試合はもっとおもしろかったと思う。

芝工大の独走に終わる

関東学生秋季リーグ　明大、春につづいて二位

三十六年度関東学生秋季リーグ戦は10月8日、新加盟の日大、再開女子リーグの日体大女子、日女体短大を加えて駒沢ハンドボール競技場で開幕。途中雨天で一部日程変更があったが、各校とも慎重ながらも精根尽しての健闘をみせ、内容豊かなゲームを展開した。

リーグ中盤韓国遠征した日体大も二軍チームが大活躍し、秋に弱いとされた明大も、このジンクスを破って芝工大と優勝を争った。春季7位の中大が奮起して3位に躍進するなど面白味を倍増したリーグで11月5日幕を閉じた。

結局一部では芝工大が春以来一層みがきがかかり、安定した試合ぶりで7戦全勝、9シーズン連続、10度目の優勝。二部は健闘の東大が教大と同率首位の座を握った。女子では日体大が圧倒的に強く三勝したが、一戦ごとに差をつめた日女体短大の上達が注目された。

▼一部▲

▽第一日（10月8日）
芝工大 26（13―6、13―3）9 慶大
中大 13（4―8、9―3）11 早大
明大 15（8―3、7―6）9 法大
日体大 14（3―9、11―3）12 立大

▽第二日（10月15日）
早大 14（8―4、6―2）6 慶大
芝工大 11（5―4、6―2）6 中大
明大 11（6―3、5―7）10 立大
日体大 19（12―3、7―4）7 法大

▽第三日（10月22日）
明大 9（3―1、6―5）6 中大
早大 16（7―7、9―2）9 立大
芝工大 9（4―3、5―1）4 法大
慶大 7（2―1、5―1）2 日体大

▽第四日（10月28日）
芝工大 24（13―0、11―2）2 日体大
明大 12（6―2、6―8）10 早大
中大 13（9―4、4―5）9 立大
法大 12（3―6、9―5）11 慶大

▽第五日（10月29日）
中大 23（13―5、10―5）10 日体大
明大 12（9―3、3―7）10 慶大
早大 16（1―1、1―1、2―3、2―1、3―3、7―7）16 法大
（延長再試合）

▽第六日（11月3日）
芝工大 19（9―3、10―5）8 立大
再試合
早大 10（4―3、6―3）6 法大

▽第八日（11月3日）
早大 15（6―6、9―8）14 日体大
芝工大 22（12―8、10―2）10 明大
中大 15（8―9、7―4）13 法大
慶大 17（5―11、12―5）16 立大

▽最終日（11月5日）
中大 10（8―3、2―0）3 慶大
立大 17（8―5、9―4）9 法大
明大 17（6―8、11―5）13 日体大
芝工大 18（9―5、9―3）8 早大

▽一部8位決定戦
立大 15（7―7、8―2）9 法大

▼二部▲

▽第一日（10月8日）
防衛大 16（9―5、7―2）7 日大
学芸大 20（10―4、10―6）10 茨城大
教育大 20（12―0、8―3）3 千工大
順天大 不戦勝 武工大

▽第二日（10月14日）
東大 17（9―5、8―4）9 日大
学芸大 22（7―4、15―2）6 武工大
教育大 不戦勝 茨城大
順天大 15（8―7、7―4）11 防大

▽第三日（10月15日）
学芸大 13（6―6、7―4）10 順天大
茨城大 12（5―3、7―8）11 防大
東大 20（12―0、8―4）4 千工大
日大 12（6―7、6―4）11 武工大

▽第四日（10月21日）
茨城大 15（4―6、11―8）14 千工大
順天大 9（2―0、0―0、3―2、4―5）7 日大
東大 10（5―1、5―3）4 学芸大
教大 3（1―0、2―2）2 防大

▽第五日（10月22日）
防大 13（8―5、5―4）9 学芸大
順天大 19（11―5、8―3）8 茨城大
千工大 16（8―3、8―9）12 武工大
教大 11（4―3、7―4）4 東大

▽第六日（10月28日）
教大 23（11―4、12―3）7 日大
順天大 15（9―8、6―5）13 千工大
東大 13（7―8、6―4）12 茨城大
防大 12（5―2、7―1）3 武工大

▽第七日（10月29日）
東大 13（8―7、5―5）12 順天大
茨城大 21（12―7、9―1）8 日大
教大 22（10―1、12―1）2 武工大
学芸大 15（10―4、5―4）8 千工大

▽第八日（11月3日）
教大 17（7―8、10―2）10 順天大
学芸大 22（11―2、11―1）3 日大
防大 20（11―6、9―3）9 千工大
東大 12（6―3、6―2）5 武工大

▽最終日（11月5日）
千工大 16（7―2、9―8）10 日大
東大 10（4―4、6―4）8 防大
茨城大 13（6―3、7―1）4 武工大
学芸大 12（4―4、8―6）10 教大

▽二部一位決定戦
教大 16（6―3、10―8）11 東大

▼女子▲

▽第一日（10月15日）
日体大 21（9―1、12―3）4 日女体短大

▽第二日（10月29日）
日体大 15（8―3、7―4）7 日女体短大

▽第三日（11月5日）
日体大 12（6―3、6―5）8 日女体短大

▽順位

関東学生秋季リーグ勝敗表

順位(1部)		芝	明	中	早	慶	日	立	法	勝	敗	勝率
①	芝工大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0	1.000
②	明大	●	×	○	○	○	○	○	○	6	1	.857
③	中大	●	●	×	○	○	○	○	○	5	2	.714
④	早大	●	●	●	×	○	○	○	○	4	3	.571
⑤	慶大	●	●	●	●	×	○	○	●	2	5	.286
⑥	日体大	●	●	●	●	●	×	○	○	2	5	.286
⑦	立大	●	●	●	●	●	●	×	○	1	6	.143
⑧	法大	●	●	●	●	○	●	●	×	1	6	.143

2部順位　①教大7勝1敗②東大7勝1敗③学芸大6勝2敗④順天大5勝3敗⑤防衛大4勝4敗⑥茨城大4勝4敗⑦千葉工大2勝6敗⑧日大1勝7敗⑨武蔵工大0勝8敗

優勝　日体大　3勝0敗
二位　日女体短大0勝3敗

▽男子一、二部入替戦

法大 16（9—4、7—9）13 教大

〔総評〕芝浦工大の九シーズン連勝、十度目の優勝で幕を閉じた本年の関東学生秋季リーグも、春、秋を通して二位の座をゆずらなかった明大の健闘が光っていた。秋季リーグを前に強化合宿を実施し秋に弱いとされるジンクスをつき破るべく意気に燃えたそのままがリーグに現われたといえよう。試合も決して楽に勝てたものでなく対立大、慶大、早大ともに逆転勝ちそれも最後の一秒を争う勝ち星でチームが一体となってぶつかった成果である。この明大とともに賞されてよいのが中大であろう。春は大脇一人のプレーで他がそれについて行けず、個々のプレーに走り、低調そのものだった。今季はみごと立ち直り、大脇石井らの早い動きに合うFWができた。このFWに福士、青砥らの守備陣がよく応え最低失点におさえたのが上位くいこみの原因となった。とくに強豪早大との初日の試合はスタートから圧倒的に押しまくり、出鼻をくじき、勝星をあげたがその試合ぶりそのまま日程の全般に行き渡った。この中大に出足をさらわれた早大は決して実力が落ちたわけでなく、むしろ円熟さを思わせた。恵谷一人にたよりがちのチームが、森岡、中尾、平塚あたりが上達し、長沢のプレーが非常に積極的となりしばしば好プレーをみせた。それにもかかわらず明大、中大の軍門に降らざるを得なかったのは精神的にも体力的にも躍進した両チームの努力を認めざるを得なかった結果のような気がする。芝工、明大、中大、早大の四者が今季リーグの上位陣といえようし、実力も接近したものであった。この四者から抜き出、優勝した芝工大は昨年までの小粒からぬけ大型化しオーソドックスな大きな動きから危げなく勝星をあげた。これもインカレのころぶつかったコンビ上の壁をよくつきやぶりムダな動きの少くなった、FW佐藤、北村の好リードと積極性がめだちFW全体がまとまりをみせ安定してきたこと。そして勝倉、久保、斎藤のデフェンス、センタースリーが非常にうまい動きをみせ、GK谷の上達とあいまって試合の山場、山場をよくしめくくった。やはり実力NO1のチームであったといえよう。特に芝浦打倒を目標に食いさがった明大、早大との試合は相手を完全に自己のペースに巻きこみ大きくリード、乗ずるスキを与えず押し切ったあたり見事な勝ちっぷりであった。

この上位陣を何んとか一あわふかせようと頑張ったのが慶大、立大、法大。この三者ともいづれもまだ若い選手達が多く、何か試合ぶりそのものにムラがあり、若さを思わせることが多かった。この選手達がこれからどれだけ成長するかに今後の上位進出の可否がかかっている。慶大の諏訪、堤、阿部、橋本、立大の小野、中根、江名、法大の吉村、西村、田口等がそうであり印象に残った。韓国遠征で上位陣突入を計れなかった日体大は出発前法大との試合で、これはと思わせたが、韓国遠征転戦では相手レベルが低く、帰国後調子をとり戻せず、かえって強豪明大、早大の試合では相手の早いパスワーク、試合運びにとまどったような所が見受けられた。主将青木一人の健闘ではどうにもならず連敗し不運でもあり、気の毒であった。二部では教大、東大、学芸大、順天大、防大などが上位陣で、レベルもほぼ同じで覇を争った。それだけに連日互につぶしあいの激しい試合となった。

春の一部の教大は二部におちたが入替戦にも勝てず二部にとどまった。学芸大が東京地区の国立大学大会で教育大を破って断然自信をもち秋のリーグにも教大に快勝したこと、東大、茨大がチーム力で大いに活躍したことは特筆に価する。またスポーツ界の名門日大が新に加盟したことは喜ばしいことだ。まだ部員は殆んど素人ばかりだが加盟早々二部で一つの白星をあげたことを加え部員も約三十人もおり、張切っているので来春からの活躍が期待される。終りに一、二部全チームを通して、一寸荒いプレーが目立ち、もっとフェアーにそして荒らさよりそれを技術でカバーするべくぜひ努力して欲しいと願っておく。（中沢）

優勝を争う芝工大—明大戦。芝工大福島のシュート明大板尾の好守にはゞまる

同志社大が四度目の優勝

関西学生秋季リーグ　関大、没収試合で涙のむ

三十六年度関西学生秋季リーグ戦は10月15日から11月12日まで一部は西宮第二球技場、二部は大阪学芸大池田分校で行なわれた。一部は同志社、関大、関学、神大のビッグ・4の間で優勝が争われたが、第六日に関学が関大に敗れ、同志社大が神大に大勝した。このため同志社大は最終日の関大戦を待たずに6戦6勝で31年春いらい11シーズンぶりに四度目の優勝をとげた。秋季リーグ戦の優勝は戦後の二十三年から三十五年まで関学のひとり舞台だったが、こんど初めて同志社大の優勝となった。二部は立命大が6勝0敗で優勝した。

▼一部▲

▽第一日（10月21日）

京大 12（5−4、7−5）9 神大
同志社 12（8−4、4−4）8 甲南大
関大 16（8−4、8−5）9 桃山大
関学 13（7−4、6−3）7 大府大

▽第二日（10月22日）

関学 9（3−3、6−2）5 京大
神大 15（6−3、9−0）3 桃山大
関大 12（6−2、6−4）6 甲南大

（この試合、関大に未登録選手が出場したため。没収試合となり、甲南大の勝ちとなった。）

▽第三日（10月31日）

同志社 12（6−2、6−7）9 大府大
関学 7（6−2、1−3）5 桃山大
同志社 9（6−1、3−5）6 京大
大府大 7（4−1、0−3、2−1、1−1）6 甲南大
神大 8（5−3、3−4）7 関大

▽第四日（11月1日）

関大 10（6−4、4−2）6 大府大
甲南大 11（5−5、6−4）9 京大
同志社 15（6−2、9−5）7 桃山大
関学 8（4−5、4−2）7 神大

▽第五日（11月5日）

神大 9（4−2、5−3）5 甲南大
関大 15（6−3、9−3）6 京大
桃山大 12（7−6、5−5）11 大府大
同志社 13（4−5、9−4）9 関学

▽第六日（11月11日）

桃山大 11（6−4、5−4）8 甲南大
関大 12（8−4、4−6）10 関学
同志社 21（13−3、8−7）10 神大
京大 20（7−1、13−2）3 大府大

▽最終日（11月12日）

京大 12（5−4、7−4）8 桃山大
神大 11（5−7、6−3）10 大府大
関学 9（6−2、3−5）7 甲南大
関大 15（6−6、9−4）10 同志社

優勝チーム

	（春）	（秋）
23	関学	関学
24	〃	〃
25	〃	〃
26	〃	〃
27	同志社大	〃
28	関学	〃
29	同志社大	〃
30	関学	〃
31	同志社大	〃
32	関学	〃
33	〃	〃
34	〃	〃
35	〃	〃
36	関大	同志社大

関西学生秋季リーグ勝敗表

順位（1部）		同	関	学	神	京	甲	桃	府	勝	敗	勝率
①	同志社	×	●	○	○	○	○	○	○	6	1	.857
②	関大	○	×	○	●	○	●	○	○	5	2	.714
②	関学	●	●	×	○	○	○	○	○	5	2	.714
④	神戸大	●	○	●	×	●	○	○	○	4	3	.571
⑤	京大	●	●	●	○	×	●	○	○	3	4	.429
⑥	甲南大	●	○	●	●	○	×	●	●	2	5	.286
⑥	桃山大	●	●	●	●	●	○	×	○	2	5	.286
⑧	大府大	●	●	●	●	●	○	●	×	1	6	.147

2部順位　①立命大6勝0敗②大阪歯大4勝2敗②大阪経大4勝2敗④大阪学大3勝3敗⑤大阪市大2勝4敗⑥大阪工大1勝5敗⑥大阪大1勝5敗

スタートの悪い神大

（評）リーグ戦前の予想は同志社関大が圧倒的に強く、この両チームから優勝というのが常識だった。ところがリーグ戦第二日に関大が甲南大を12−6と一方的に破ったが、未登録選手出場のため没収試合となった。第三日の神大戦には前半リードされて1点差で2敗を喫した。これで関大は完全に優勝圏外へ去った。最終日に同志社を破っているだけに甲南大の没収試合は痛かった。

同志社は順風満帆、第六日の対神大戦に大勝して四度目の優勝をとげた。春は惜しいところで神大と引き分け、関学に1点差で敗れて優勝を逸したが、関西学生界ではFWバックスともすぐれ実力はNO1である。FWは今藤を中心によく走り、バックスも激しいアタックをみせていた。前後半を通じてスピードがあり、相手のディフェンスを前におびきよせてからサイド攻撃に移るあたりは大したもの、ことに今藤のコントロールあるシュートは印象に残った。ただ最終日の関大戦で力を落としていたのはどうもいただけない。

▽関大は高村のプレーがよかった。さすが世界選手権大会に出場しただけあって、水ぎわ立ったプレーをみせた。とくにジャンプ・シュートは他の選手には絶対まねできないほどである。この高村は各チームから徹底的にマークされたが、それでもチャンスには確実にポイントをあげていた。没収試合さえなければ優勝していたことだろう。名門の関学は春に次いで相変らず不振である。渡辺監督、深江コーチと恵まれていながらあまりパットせず、神大に8−7、桃山大に7−5と少差で勝つ始末である。関学のプレーにはスピードがなかった。それが不振の大きな原因だ。秋季リーグに一部に昇格した桃山学院大が2勝したのは賞されていい。来シーズンAクラスをねらうチームである。神大は第一戦で京大に敗れたのは意外だった。春のリーグ戦でも第一戦に甲南大に8−7と1点差で敗れている。どうもスタートの悪いチーム、これさえなければ優勝できる。

1961年10大ニュース

本誌編集部は1961年1月から12月19日までにハンドボール球界に起きた10大ニュースを選んだ。ことしの球界の動きは実にめまぐるしく、協会創立いらいいままでにないほどいいろいろなニュースにぶつかった。10大ニュースを一つ一つ拾って過去をふり返ってみよう。

1　全日本チーム、初の欧州遠征と世界選手権（七人制）大会参加

3月1日から西独の各都市で開かれ、日本はルーマニア、チェコのグループ（C組）に出場、チェコに38―10、ルーマニアに29―11でともに敗れた。しかしその後の親善試合で活躍し、世界選手権の2敗を含め初の海外遠征で25戦13勝10敗2引き分けの好成績を残した。フランス、ドイツ、チェコ、イスラエルの四カ国を回り、本場のハンドボールを身につけたのは大きな収穫であった。

2　東京五輪大会の開催種目から除外

昭和三十四年五月、ミュンヘンで開かれた第55回国際オリンピック委員会（IOC総会）で昭和三十八年（1964年）の第18回オリンピック大会が東京都と決定した。このときハンドボールの開催が約束された。ところが三十五年十二月二十二日の東京オリンピック大会組織委員会で二十二種目案を一気に十八種目とし、ハンドボールは除外された。つづいて三十六年六月十五日からアテネの第58回国際オリンピック委員会（IOC総会）で22種目について投票し、その結果ハンドボール、洋弓が除外、カヌー近代五種競技が返り咲いて東京大会は20種目開催となった。ハンドボール協会はこの組織委員会の不信をタテに声明書と公開質問状を出した。

初の世界選手権参加

1961年のトップニュース

...se sont imposés devant une excellente sélection du Lyonnais à l'issue d'un match de haute qualité

Japon 27
Lyonnais 21

写真は日本チーム遠征を報道したフランスの「レキップ」紙の切抜き

3　日体大チームの韓国遠征

10月19日栗本義彦団長（日体大学長）馬場太郎副団長（協会副会長、日体大出身、現在桃山学院大監督）、荒川清美監督ら一行二十人が出発、韓国各地を転戦し6戦6勝の記録を残して10月31日帰国した。韓国には日体大出身者が多く、ソウル（京城）、大邱で大歓迎を受けた。

4　芝浦工大、三大タイトルを握る

3月に山田、福本、田口、村上尾藤の主力を送り出したが、不断の努力が実を結び、7月の全日本学生（大阪府豊中市）に中大を12―10で破って4連勝した。8月の全日本総合（倉敷市）に大崎電気を17―14で破って3連勝した。11月の全日本学生王座（東京）でも同志社大を破って三度目の優勝を飾った。

5　中京商、全国高校で3連勝

第十二回大会（7月30日―8月3日、氷見市）の準決勝で盛岡第一（岩手）を13―9で破り、決勝でライバルの桜台（愛知）と対戦した。前半6―5とリードされたが後半19分には11―11と追いつきタイムアップ寸前RW深谷（忠）の殊勲のシュートで桜台を押え3連勝した。（なお秋田国体の準々決勝で桐生工に4―3で敗れる番狂わせがあった）

6　大崎電気（男）、国体で初優勝

チーム結成して二年目に国体に初優勝した。準決勝で大阪クラブを11―10、決勝で名門の桜丘会を18―13で破った。竹野、宮原（藤）田口、福本、今野と世界選手権出場者をそろえ、倉敷の全日本総合では決勝で惜しくも敗れて2位となったが、芝浦工大と同等の力を有し全日本NO・1になる日も近い。

7　愛知紡、全日本総合5連勝、国体2連勝

倉敷の全日本総合の決勝で熊本大洋デパートと延長のすえ8―6で勝ち、秋田国体でも大洋デパートを破った。ベテランの愛知紡―若さの大洋デパートは非常に興味があったが、二度とも大洋デパートを押えたのはさすが。沢田、青木、磯部、塚原、宮本、山崎、篠崎の速攻、好守はみごとだった。

8　関大初優勝（関西学生春季リーグ）

名門関学の不振で優勝した。同大に11―10と1点差で惜敗したが関学を18―16、神戸大を16―13で連破し、6勝1敗で同大（5勝1敗1引き分け）、関学（5勝2敗）を押えた。世界選手権に出場したエース高村の活躍が光った。

9　女子実業団チーム誕生

大崎電気（東京）、レナウン工業（東京）、大洋デパート（熊本）が相次いで名乗りをあげた。大崎電気とレナウンは関東周辺の栃木女、水海道第二、静岡城北、日体大のエースをそろえた。大洋デパートは高校の名門、熊本市立高、菊池農蚕（熊本）の主力を集めた。なかでも大洋デパートは全日本総合2位、国体2位の成績を残した。

10　関東学生リーグに女子リーグ復活

関東学生ハンドボール連盟では今秋から関東学生女子リーグ（七人制）を行なった。日体大と日女体短大の二校が参加し、駒沢で三連戦を行ない、日体大が三連勝した。関東での女子学生リーグは昭和二十三年いらい、十三年ぶりの復活である。

1961・10 BIG・NEWS

ヨーロッパ遠征記

（その二）

世界選手権日本代表監督　高島　洌

遠征の第二の目的である「この機会にできるだけ多くの国で、数多くのゲームを行って、技術の向上をはかること」については、前号の終りにも少々触れたが、五十四日間（実質）に二十五試合という常識では考えられないスケジュールを承知し、強行した。

このスケジュールには、役員も選手も賛否こもごもであったが、それぞれお世話になる数ヶ国に対して、スケジュールは貴方にまかせるといってある以上、当然それに従うべきであるというのが私の考え方であった。

また招いてくれた国々にしても、自国で一試合でも多く試合をさせたいのが人情であろうと考えたからである。

したがって遠征期間中は、総てを試合と試合をかちとることに集中した。厳格な規律と、節制のみが、この強行スケジュールを突破出来る唯一の道と考えたからに外ならない。

このことは、日が経つにつれて漸次一部の役員、選手に負担となり不満となった様子であるが、人間の能力に限界がある以上目的以外の雑事を犠牲にするのが当然であろう。

そのためかどうかは別にして、通算して13勝10敗2引分の成績は、立派なものであると考えているし、又国際公報の日本チームの評価の中でも、「七人制ハンドボールの価値に疑問を持つ者は、日本チームの試合ぶりを見なかった者である。事実、彼らの現われたところでは、どこにおいても彼等のボールさばきの巧妙さが観衆の感嘆と興味をわかせた。

日本の若い選手は、ものすごく敏しょうであるばかりでなく、彼らはたとえ破れても、その試合を必ず成功にみちびく一種のコミックな要素を試合ぶりのなかにもっている。

世界選手権大会の第一次リーグで、クジ運は不運にも、世界最強の二チームと対戦させた。いかなる楽観的希望も持てなかった。

しかしドイツの各地方チームとの対戦は日本が得点されるのみでなく、巧妙に得点することを示した。ドイツの著名なプレイヤーであるベルナール・ケンパは、日本チームにある期間付き添い、ギョッピンゲン・チームにより実行されているフェント方法を教えた。そのケンパは、日本チームがヨーロッパチームにとって、まもなくあなどるべからざる敵手になるだろうと評している。」

と書いてあるのを見ても、まんざらお世辞ばかりであるとは考えられない。

各国を廻ってみて、一番強力であると感じられたのは、チェコスロバキアであった。ここでは、ドイツのような理論的なセットオフェンスはみられなかったが、徹底した力とスピードをたたき込んでいるように見受けられた。チェコスロバキアに到着したその日（三月十八日）に首都プラハで、チェコスロバキア対ルーマニア（プラハ対ブカレスト）の女子の試合があるというので、直ちに見学に行った。これが遠征期間を通じての唯一の女子の国際試合であった訳であるが、試合運行等については、男子と全く同じである。

日本の女子と比較してみて、身体のよいこと、スピードのあること等が特に印象に残った。この試合終了後、選手団の中で、日本の女子のトップレベルと比べてどうだろう——ということが話題になった。

シュートの練習をするルーマニア選手

強いもの同志の対戦だから、見た目にはさほどでなくとも、相当な開きがある。恐らく男子と同じくらいの差であろう。とする意見と、また一方、いやいや大したことはない。あの程度のスピードやシュート力は日本の女子も十分備えているから、同程度と見てよいだろう。とする見方に分れて遂に結論には達せず、結局は「やはり試合をやってみなければ分らないよ」ということに意見が一致した。しかしながら、この一試合の見学から察知出来る限りの日本女子選手への示唆は、

1　スピードを増すこと。
　スピードとは、ボールのスピード、走るスピード、試合運びのスピード等一切を含めたものである。

2　ロングシューターの養成
　どんなチームでも、ゲームに際してロングシュートを何分の一か使用することは、ハンドボールの原則であるが、国際試合には特に必要性を痛感する。

3　ゴールキーパーは、足だけで下のボールを処理出来るようになること。
　（これは前号にて詳述した。）

等であろうと思う。女子の国際交流も、益々活潑になることが予想される今日、特に女子の指導者、選手諸君の尚一層の研讃を希望するものである。

チェコスロバキアは、十一人制を廃止し、全部七人制に切り替えていた。理由はどこでも大同小異で、十一人制はサッカーと両立がむづかしいこと、七人制に優るスピードをもった他の室内スポーツはないこ

と、等が主な理由であった。七人制に切りかえたといっても、体育館などが完備している訳ではなく、一例を挙げれば「モスト」の体育館などは、恐らく縦三十一〜二米、横十六米ぐらいで、日本ならばどこの学校にもあり、とても国際試合などは、と考えがちであるが、そんなことには一向とんちゃくなく、堂々と国際試合の会場にしている。「規則には違反していない」ものは、どんなものでもよいというのが、彼等の考えかたであり、この点はわれわれも大いに見習うべきであろう。そのような考え方にたてばハンドボールを行う「広場」は、恐らく現在の何倍かにふえるにちがいない。

都会のビルの屋上にも、或は寒村の鎮守様の庭にも、七人制のゴールが立っている——などと考えるのは、単にわたくしの虫のよい夢なのであろうか。

（つづく）

欧州における審判の方法 ②

日本代表団役員
荒川清美

どちらかのチームが7米スローを取るとスローを行なうチームの一人のフィルドプレイヤーが素早く場外に出る。出ると同時にベンチから一人のプレイヤーが入場、直ちに7米スローの位置につき、シュートが終わると場外に出て、再び交代をするわけである。この実例を見てもこの交代は瞬間に行われるので審判に通告している暇などはない。この一例だけでも諒解されることと思う。

これを見たわれわれは欧州においても7米専門のプレイヤーの居ることを知り、これも一つの作戦であることが解ったのである。

またフィルドプレイヤーがゴールキーパーになることは日本と同じ解釈であったが、ゴールキーパーの退場の際の処置については異なっていた。

幸か不幸かこのゴールキーパーの退場が大会において、日本対ルーマニア戦に出現われわれはこの実例を見ることが出来た。

退場の理由はゴールキーパーが日本の防御が一人も居らないのでエリヤより出て強いチャージーを行ったために課せられた判決である。会場は、日本のゴールキーパーが退場を命じられたので騒然となり、一時どうなることかと心配し、われわれもゴールーキーパーが退場を命じられたのでは以後の試合はどうなることかと大変心配をしていた。ところが審判はゴールキーパーの交代を命じ、フイルドプレャーの一人を退場せしめ競技を再開した。勿論日本は六人で競技を行ったが、このような処置をわれわれは知らなかったし、むしろ二分間の退場であるので退場時間はキーパーなしで試合を継続するかまたは没収試合にでもなるのではないかと思案をしていただけにこの処置は実に意外であり驚きもした。この処置に対して日本のベンチから主将を通じ抗議も出たが、これも受け付けられず試合は続行されたのである。

私としては試合終了と同時に、この処置を正して見ると審判は国際連盟の規約に従って判定をしたまでであると言うので翌朝規則書を持参して再び聞き正したのだが前述した通りとの返答であった。

審判がデンマークより選出された審判員であったのでデンマーク式に判定されたのではないかと多少の不信を持ち、両国委員長に正して見ることにしてその場をきり上げた。両国委員長は一九六〇年の国際連盟技術委員会において、ゴールキーパーは常におらなければならない。もしゴールーキーパー退場の際はキーパーの交代をなさしめ、フイルドプレイヤーの一人が退場することに決定しているとのことであった。

したがってこの判定はこれに基いて適用されたことが確認されたわけである。

この実例を見ても、この問題は理解していただけると思う。

ベンチにしてもセンターラインを中心に左右に分かれサイドが代わればベンチが代わり選手の交代はこのベンチよりなさるので限定された役員（監督、コーチ）と選手しか入ることが出来ない。ために審判員はこのベンチの監視もおこたらないのである。ドリブルにおいて日本と異なっているのはカットしてボールが床面に当たってもドリブルとはみなさない。要するにカットはドリブルと見ないという解釈をしているのであり、ジャグルは甚とない、ために欧州においてはジャグルの反則は適用してないとのことであった。

しかし何れの場合においても、これが技術として戦術として生かし、故意に行った場合は当然反則として審決される。

欧州におけるハンドボール競技は洗練された技術が充分に生かされ、ゲームが全くスピーディーに運営されていることである。それは身体接触の反則が非常に少ないからである。

日本の試合において一番多い反則は身体接触で大体一試合平均三十二位の反則がありその八〇％は身体接触である。

日本の反則に比べて欧州における反則は一試合の反則がただの八つしか反則がない試合がある。このことは審判員も選手もお互に危害防止上から注意していることである、お互に協力をしあっている結果であることを証明される。

相手を阻止することは身体だけに限られ腕、手、脚で阻止することは許されていないのであるから、相手を阻止することは相手の進路に体だけで立防がる方法しか用いえないのである。

ためにシュートするプレイヤーに後から腕、手、脚などでどんなことをしても7米スローになる。横からの場合は注意を受けくり返し行えば7米スローか二分間の退場となる。前方からでも強い反則等を犯せば注意なしで退場となる。ともあれ日本においては退場の処置は甚と見受けられないのであるが欧州における退場は日本の7米スローの数よりも多く、そしてわれわれから見ると、いとも簡単に退場をせしめている。

しかし審判によって異なる場面も多少見受けられた。例えばシューターが反則され乍らも充分な技量を出し切ってシュートをしてしまうとそれは反則とは見なされず、競技はそのまま続行されるためにこのような場合のシューターは手からボールを離さずに持っていることが7米スローを取ることになるのである。

危険なフェント動作においても、頭を腰の下に下げて突込んだ場合とか相手を前において片足を挙げジャンプするなども反則となり危険防止上の判定は厳重であると共に細部に亘って注意が払われている。

（つゞく）

技術研究室

ポストプレー(攻撃)について (第一回)

担当　松本重雄

みんなで研究しよう

編集部から「技術編」の稿を依頼されてからかなり日数を経てしまった。そもそもの条件が、やや高度とあり、連続掲載ときいている。私には荷が過ぎるので全く恐縮した。連続して一編のものをこまぎれにして載せるのは、読む側としても、雑誌としても適当でないように思われる。それは諸先輩の単行本による指導書があるので充分と思うし、これからもそういった良書が出版されるものと信じているからだ。だから雑誌一冊を見て、他号を最後迄読破しなければならないものよりも、一冊だけで、何かしら納得のいくもの、ははあこんな意見も、考え方もあるものか、といったものが求められているのではないかと思う。その意味でいろいろ編集部と話し合い単に私だけのものでない、共同研究の場を読者と共に持ちたいと思い、研究室という名にしてもらった。私のねらいは、数多い指導者選手諸君が、日頃考えていること、疑問点、こうしたいと思っていること等を、どしどし寄せて戴いて、その中の何かをテーマとして、散発のきらいはあるが一回づつまとめて見たいと思っている。たとえば、チーム作り、試合の作戦、フォーメーション、メンバー構成、メンバー交替、シュート、フェント、オフェンス、ディフェンス、練習法、ルールの裏表、等々、実戦に対する細かい身近かな経験にもとづいたものを生かせるようにまとめたいと思う。そしてこの研究室が協会の機関紙的スコアーの羅列等からくるあきのこない、期待と面白さをもった、親しみのあるものにしたいと希望し、読者の投稿を期待し、その一応の責をもつことを誓い、あえて筆をとったしだいである。

ポストプレー(攻撃)について

西独チーム来日(一九五六年)以来、日本のハンドボールは従来のドリブル多用のプレーから、パスワークを痛感し、現在その技術は実に一変してきたと言える。彼等はよくボールを廻し、それにつれての動きによりノーマークを作る機会が実に多かった。その頃のわれわれのプレーは、とくに攻撃の際、ドリブルを多用し、ボールキープの強い者がドリブルで強引にシュートに結びつけたり、フリースローの強肩者による得点等で、決してパスワークから生じた得点のみでないプレー振りがよく見られた。その後約四カ年、パスワークに、動きに、洗練された西独チームのダイナミックさを取り入れて猛訓練をしてきた。例えば、ゴール前ローリングによる大きなゆさぶり、クロスプレーによる欺まん作戦、フォローコースの確認等であった。そして一九六〇年ルーマニアチームを迎え善戦をしたのは諸君の衆知のところであろう。しかし、残念ながら一矢もむくいることは出来なかったこともまたしかりである。これは西独チームにまねたプレー振りが、悪い意味だけをとり上げるならば、いわゆる空廻り攻撃に過ぎ、ゴールに直結した動きと、ボールさばきが、組合わせ悪く、力強さをやや欠いたためであったと思う。これまでのリターンパスによる攻撃方法もするどさがなく、防御を少くずらせるプレーに努力はしていても、どうかして穴を作るべき作戦と技術が、いつの間にか、「こうしていれば穴が出来るであろう。何とかなるであろう」といったプレーの連続に変ってしまい、同じことをくりかえし、むやみに走り廻り無意味なパスにこだわったようにも見えたことだ。一方ルーマニアチームは力強さを持ち、当時は、うま味、きれいさなどを否定したプレー振りのように感じたが、よくふりかえって見ると、攻撃の力強さは、そのアンサンブルのよさが随所に見られ、また生かされ、決してブルガルという強引なプレーヤーだけのチームではなかった。ブルガルにチャンスを与える他のプレーヤーの動きと、チーム内の個人技の特徴をうまく組合せて連けいをとった戦いぶりであった。とくにゴール前の動きでは、ゴールエリアラインと、フリースローライン間の厚味を利用した細まかくそしてするどい穴をあける策が秘められていたと思う。だからこそ一九六一年室内世界選手権を獲得出来たのだ。この大会でドイツが四位に甘んじたこと、他の国々のプレー振りの技術的見解は、高嶋理事長が語っているので多言を要しないが、ケンパ氏(西独ハンドボール界の名監督)の教えなどを考え合せたドイツの敗因は、余りにもパスワークが空廻りに過ぎたと云える。実にきれいにパスを廻し、スムースに動きはしても、それが横走りであったり、ゴールの一方向に穴をあける動きとパスのするどさを欠いたのではないかと思う。ルーマニア、チェ

コスロバキアチームのプレー振りは、全員が、ただ単に動き廻ったり、パスのみにこだわらず、ロングシューター、ポストプレーヤー、ボールさばき者、フォロー役、強引なキープ力の持主等、多種、それぞれの個人技を生かした上での組合せで勝利をものにしていた。以上の経験や見学、自分のチームに対する練習等を基にして攻撃に対する考えをまとめてみると、やはり一部にもっとポストプレーを活用した技術的作戦の再考が、必要かつせまられた問題と思われる。

チーム作戦への応用

活字によって要領をつかみ説明することはむづかしいが、ポストプレー攻撃を大別すれば次のことが基礎と云える。そしてこの応用即ちチーム的作戦が、大いに考えられるべきである。

①ポストにボールを入れるプレー
　イ、直接ポストからシュートする
　ロ、リターンパスによるシュート
②ポストにボールを入れないプレー
　イ、ポストが防御を固定させるプレー
　ロ、ポストが防御を引ずるプレー

ポストプレーからシュートする瞬間（関東学生リーグ芝工大—明大戦から芝工大北村のシュート）

A図
△防禦
○攻撃
→人の動き
⇢ボールの動き

B図

C図（I）
（引離し）

C図（II）

①の場合リターンパスによる縦のするどさは従来から多用されているが、ここで考えられることは防御を常に少く想定しがちであることだ、（A図参照）ここで、ポストプレーヤーのブロック技術と動きによって、防御と同数或はそれ以上（一人で二人を引きつける）の敵を抜く技術が必要とされる。（B図参照）②の場合 C図の如く、防御をチームの流れから固定させて、味方を得点しやすくすることである。

従来のエリア内の動きは、むだ走りが多く、チーム全体の動きと、ボールの位置、穴をあけさせるべき地点の確認、そしてその連絡などが、動き廻るだけではとぎれ勝ちであるし、全員の個人技を活かしたプレーが分さんしがちでもあるのだ、「ポストは止っている必要あるとき動く」様に変ってきているとも云える。全体の攻撃の中に、このポストプレーを一方向の活路としたならばさらに強味が加わることと思う。ボールの位置とポストの位置、穴をあける位置とシュートの組合せ、ポスト以外のプレーヤーの動き等、フォーメーションをいくつか作成し、その確率を練習と実戦にためすことは我々ハンドボールマンにとってたのしみがふえたことにもなると思う。ここで注意することは、基礎のないプレーは作戦を実現させるのに零に等しいことは必然的であり、パス、キャッチ、リターンパス、フェント、ダッシュ、ブロッキング等、その練磨がのぞましいし、いくらポスト・プレーがうまくゆくからと云って、速攻、ローリングにおけるクロスプレーを忘れてはならないと思う。十一人制は六人対六人の動きに変っている現在、そして七人制は、速攻六割と云われながら実戦におけるその何割減のため、セットプレーにこのポストプレーを大いに活用すべきである。一言加えるとポストプレーの秘けつはボールと人間によって、ゴールエリア、ラインとフリースローラインの間に防御を引つけて、引離す、ことが原則であることを忘れてはならない。

以上紙上でなかなか言尽すことは実際にグランドで行う場合と違いむづかしいことであるが、諸君の研究を期待している。

質問かんげい　この技術研究室はみんなで話し合いながら紙上で研究していくページです、みなさんの投稿をお待ちします。

ハンドボールのスポーツ傷害

ハンドボール協会
トレーニングドクター 広田公一

最近十年間（1950～1960）にドイツのミュンスター大学で起こったスポーツ傷害のうち、特にハンドボールの項を中心に抜萃し要約した。原著は Sportarzt, Heft 4, 5, 1961)、著者はミュンスター大学スポーツ医学研究所フリングス博士（Dr. med. H. Frings）である。

十年間の発生件数二、八〇一、性別では男子二、二三二（七九・七%）女子五六九（二〇・三%）である。全体の約九〇%が軽傷、約一〇%が重傷であった。

論文が不完全で、各スポーツ種目の普及度や参加人員が不明である。（訳者注）

第一表は、男子および女子のスポーツ傷害の内訳けである。ハンドボールによるスポーツ傷害がサッカーについで多いが、ハンドボールの普及度が高いドイツの国状によるものと思われる。（訳者注）

第二表は男子の症例別にみたスポーツ傷害の内訳けである。ハンドボールによる傷害が含まれている項目のみを拾ってみた。

第三表はハンドボールによるスポーツ傷害男子二三三例、女子一一例の内訳けである。

詳細については原著を参照されたい。

訂正 前号「ハンドボール選手の基礎体力」の項で、15頁3段目の「(7)ハーバードステップ」は「(7)サイドステップ」の誤まりでした。訂正します。

第1表

男子（2,232例）	例数	女子（569例）	例数
1. サッカー	635	1. 短距離競走	53
2. **ハンドボール**	233	2. スキー	48
3. 短距離競走	106	3. 走り巾とび	40
4. 水泳	100	4. 水泳	30
5. スキー	97	5. 体育	27
6. 徒手体操	85	6. 平行棒	26
7. バスケットボール	71	7. 走り高とび	24
8. 走り巾とび	66	8. バスケットボール	23
9. 平行棒	63	9. バレーボール	23
10. 飛び込み	59	⋮	
11. 鉄棒	57	16. **ハンドボール**	11
12. 走り高とび	52	その他	
13. テニス	40		
14. 中長距離競走	40		
15. バレーボール	38		
16. あん馬	36		
17. 槍投げ	33		
その他			

第2表

項目	例数
1. 足関節捻挫	317
サッカー	116
ハンドボール	25
走り巾とび	19
バスケットボール	18
スキー	12
徒手体操	12
その他	
2. 膝関節捻挫	233
サッカー	106
スキー	28
ハンドボール	26
徒手体操	11
バスケットボール	10
その他	
3. 比較的重い擦過傷	98
サッカー	36
ハンドボール	12
バスケットボール	8
その他	
4. 腕関節捻挫	87
ハンドボール	18
サッカー	16
鉄棒	6
バスケットボール	5
その他	
5. 大腿四頭筋の剥離（肉ばなれ）	82
ハンドボール	19
100m ダッシュ	19
サッカー	14
走り巾とび	9
その他	
6. 指関節捻挫	81
ハンドボール	35
バスケットボール	9
サッカー	8
その他	
7. 略	
8. 大腿二頭筋の剥離	54
短距離競走	23
走り巾とび	10
ハンドボール	2
その他	
9. 軀幹の伸筋の剥離	53
飛び込み	19
走り高とび	6
ハンドボール	3
サッカー	3
その他	
10. 半月板傷害を伴った膝関節捻挫	46
サッカー	19
スキー	8
ハンドボール	6
徒手体操	5
その他	
11. 略	
12. 腓腹筋の剥離	45
短距離競走	11
サッカー	7
テニス	6
ハンドボール	3
その他	
13. 拇指の基部の関節の挫捻	39
ハンドボール	12
バレーボール	6
その他	
14. 裂傷	38
サッカー	16
ハンドボール	5
その他	
15. 以下略	

今月の話題

姿消すか駒沢ハンドボール場

望まれる早急の代替地対策

オリンピック東京大会に備えて東京都では駒沢（世田ケ谷区）にスポーツセンターをつくることになった、九月四日そのクワ入れ式が行なわれ、昭和三十八年十月完工をめざして着工にはいった。

ところで、駒沢といえば、西宮などとならんで古くからわが国のハンドボール専用グラウンドとしてなじまれていたところである。このスポーツセンターの建設でハンドボール場がどうなるか。ハンドボール界にとって、一つの大きな問題である。

例の種目削減以前は、東京大会のハンドボール競技は駒沢に約七億円の予算で現在の場所に専用スタヂアムをつくることになっていた。正式種目からはずされて以後は情勢も相当変わってきている。

現在の駒沢は、プロ野球（フライヤーズ）が使っている野球場をはじめハンドボール、フィールドホッケー、バレーボール、軟式野球場などが、雑然と配列されているうえにその施設もお粗末である。

そこでオリンピックを機会に整備し、レクリェーションセンターをかねた競技場も新設。オリンピック以後は、国体など総合競技会にも使用できる規模に整えようというのがこんどの新計画である。

そのためにハンドボール場も当然改修、または移転されるわけなのだが、完成後にはどうやら「ハンドボール専用グラウンド」とはならないから頭が痛い。

計画では、現在のハンドボール場（二面）に野球場が移され、ハンドボール場は野球場と入れ替る。

しかし、移されたあとはハンドボール専用としないで「運動広場」として使うことになり、グラウンドは掘り下げて地面よりやや下にし、周囲は芝生スタンドとする。

これまでの実績からこの「運動広場」がハンドボール競技優先となり、あるいはハンドボール専用グラウンドとなって協会の責任管理ということになるのが、一番理想的だ。現在の段階ではなんともいえない。この建設でいちばん影響を受けるのは、年間約百二十試合の公式戦を消化している関東学連である。

おそらく工事の関係で今秋を最後に、来春からは駒沢以外のグラウンドでリーグ戦を開くことになろう。といって一・二部併行し、一日八試合を消化する二面のグラウンドを有した代替地など簡単に見つかるとは思わない。

協会と関東学連は現在、二、三の候補地を考えている。この機に、ある程度の犠牲をともなっても、半恒久的な専用グラウンドを確保すべきではないかとの声も上がっている。

もちろん土地買収や新設は経済的な面で望むべくもないが、既存の都営施設の優先使用を積極的に運動して、本拠地とすることは必要であろう。これは単に関東学連だけの問題ではない。日本のハンドボール界が競技普及にこれまでみせてきた地道な努力が、グラウンド難から将来の発展を坐折させる危険性もないとはいえない。協会も早急に対策をこうじるべき問題である。

×　　×　　×　　×

第 3 表

ハンドボールによるスポーツ傷害

（男子 233例の内訳）

傷害	例数
指関節捻挫	40
膝関節捻挫	26
足関節捻挫	25
大腿四頭筋剥離（肉ばなれ）	19
腕関節捻挫	18
比較的重い擦過傷	12
拇指基部関節捻挫	12
半月板損傷を伴った膝関節捻挫	6
肋骨打撲	6
裂　傷	6
大腿二頭筋剥離	5
上腿の打撲	4
上腕骨の尺骨側上骨果炎	4
肘関節捻挫	4
肩関節捻挫	4
軀幹伸筋群剥離	3
大腿二頭筋剥離	3
腓腹筋剥離	3
趾関節捻挫	3
肩鎖関節捻挫	3
半月板嵌頓	2
脳震盪	2
指の靱帯断裂	2
前腕の腱鞘炎	2
腎臓打撲	2
肋骨骨折	1
外腹斜筋断裂	1
上腿前部の筋ヘルニア	1
リンパ管炎（手）	1
鼓膜穿孔	1
拇指基部関節脱臼	1
外傷性膝蓋骨脱臼	1
指の脱臼	1
十字靱帯損傷	1
脊ツイ薦骨打撲	1
大臀筋の血腫	1
三角筋剥離	1
膝蓋骨下滑液嚢炎	1
手の水疱（まめ）	1
鎖骨骨折	1
鼻骨骨折	1
中足骨骨折	1
Hoffa 氏病	1
頭蓋骨震盪	1
足根部の関節の捻挫	1
膝蓋骨の骨膜腫	1
濶背筋の剥離	1
内転筋の剥離	1
アキレス腱痛	1
足の水疱（まめ）	1
（女子　11例の内訳）	
指の捻挫	5
肩鎖関節捻挫	2
大腿四頭筋剥離	2
拇指基部関節捻挫	1
上腕骨の撓骨側上顆炎	1

地方だより

全茨城大が優勝
茨城総合　女子は水海道二高

第十一回茨城県総合ハンドボール選手権大会は十一月十一、十二の両日、石岡高校グラウンドで行なわれ、男子は全茨城大、女子は水海道二高が優勝した。

▽男子一回戦
全茨城大 13（7－3 6－2）5 A石岡一高
A水戸工高 13（8－1 5－2）3 潮来高
B土浦工高 14（9－2 5－6）8 麻布高
笠間高 22（9－6 13－5）11 B水戸工高
石岡クラブ 23（11－1 12－3）4 水戸一高
B石岡一高 14（7－6 7－6）12 全笠間
日立製作所 20（7－3 13－3）6 土浦一高
土浦工A 7（4－3 3－2）5 水工クラブ

▽二回戦
全茨城大 13（8－6 5－1）7 A水戸工高
B土浦工高 16（7－3 9－8）11 笠間高
石岡クラブ 8（3－0 5－6）6 B石岡一高
A土浦工高 12（4－4 8－3）7 日立製作所

▽準決勝
全茨城大 19（12－5 7－6）11 B土浦工高
石岡クラブ 13（5－3 8－7）10 A土浦工高

▽決勝
全茨城大 12（5－3 7－7）10 石岡クラブ

▽女子一回戦
B八郷分校 12（5－4 7－3）7 日立二高
A太田二高 21（9－5 12－2）7 笠間高
水海道二高 21（13－1 8－2）3 A八郷分校
B太田二高 15（6－4 9－0）4 土浦一女

▽準決勝
A太田二高 19（8－3 11－4）7 B八郷分校
水海道二高 14（6－7 8－2）9 B太田二高

▽決勝
水海道二高 10（4－2 6－3）5 A太田二高

▽中学校の部順位
①赤塚中 ②土浦一中 ③千代田中 ④土浦二中

日立製作所でチーム結成

今年度から日立製作所が各県よりメンバーを集めてチームを結成した。今年は同好会程度であるが来年度から会社内の正規の運動部として承認される。実業団チームとして活躍が期待される。

（茨城県だより）

男女に京陵中活躍

▽熊本市中体連ハンドボール（11月5日、熊本市立高校）

（男子Aブロック）
京陵 18－3 鏡
湖東 不戦勝 二岡
京陵 15－10 湖東

（男子Bブロック）
城南 12－11 西部
竜南 10－7 水俣一
竜南 13－10 城南

（女子Aブロック）
京陵 3－1 大津
湯出 6－1 西部
京陵 8－5 湯出

（女子Bブロック）
豊川 5－4 八代一
水俣一 3－2 迫間
豊川 6－4 水俣一

浦和市高と熊谷商工
埼玉県高校新人戦で優勝

▽埼玉県高校新人戦は十一月二十六日浦和市立高校グランドで行なわれ、浦和市高と熊谷商工が優勝した。

▽男子（リーグ）
大宮高 12（6－3 6－3）6 春日部高
浦和市高 11（6－0 5－1）1 大宮高
浦和市高 13（6－3 7－1）4 春日部高

▽女子（トーナメント）
▽準決勝
熊谷商工高 13（5－0 8－0）0 熊谷女高
深谷女高 7（5－2 2－3）5 浦和市高

▽三位決定
熊谷女高 11（6－2 5－3）5 浦和市高

▽決勝
熊谷商工高 9（1－3 8－0）3 深谷女高

関西学連で没収試合

関西学生リーグで没収試合があった。同リーグでは初めての出来事である。9月22日の関大—甲南大がそれである。この試合は12—6で関大が圧勝したが、後半26分に関大がメンバー・チェンジした。これがことの始まりである。関大は6番中野を引っ込めて13番近藤を出場させた。このときすでにスコアは12—6、ところが関大が当日提出したオーダーは11人しか記入していなかった。近藤がプレーに移ってからこれに気がつき、甲南大から「未登録選手を出したのでルール違反になる。没収試合にすべきだ」と申し入れた。関大は11人しか記入しなかったことを認め、「理事会の決定にしたがう」とその場で回答した。関西学連（委員長　中江義雄＝同志社大）は9月28日理事会を開いて「関大—甲南大の試合は没収試合とし、甲南大の勝ちと認める」と発表した。

▽関大はこの決定に対し「処分が苛酷すぎる」と抗議したが認められなかった。その後の試合でも関大はミスをやった。選手がユニフォームを間違えて審判から注意を受けた。関西学連で没収試合のような大きなミスを出したのは初めてだが、関大のマネージャー、学連役員、甲南大がちょっと注意すれば、オーダー記入の11人はすぐ発見できたケースである。

中江委員長の話＝大変なミスを出した。11人しか記入していなかったのは関大のミスであり、故意にやったものではない。私としては没収試合にしたくなかった。しかし理事会の決定に従がうのがアマスポーツのあり方であり、この決定を尊重した。

早大、慶大に三連勝

第九回早慶ハンドボール定期戦は九月十五日午後七時三十分から国立競技場でナイター（四回目）として行なわれた。十八号台風のためコンデイションは悪かったが、約三千五百の観客のなかで熱戦を展開。試合はFW力に優る早

大が前、後半とも着実にリード、三連勝した。なお対戦成績は早大の4勝5敗となった。

▽第三回高校戦

慶応高 9（6―4、3―3）7 早大学院

対戦成績は慶応高の一勝二敗

▽第九回OB戦

三田ク（慶） 15（8―7、7―3）10 稲門ク（早）

対戦成績は三田クの五勝一敗二分一中止

▽現役戦

早 大 16（7―5、9―5）10 慶 大

姿消す駒沢、西宮両球技場

☆ハンドボールでおなじみの駒沢グラウンドと西宮球技場が近く姿を消す。駒沢グラウンドは東京オリンピック大会の用地となるためである。西宮球技場はグラウンドの中央に名神（名古屋―神戸）高速度道路が通るためである。来春の学生リーグは、どこか適当なグラウンドをみつけなければならない。関西学連は豊中の服部競技場か、大阪学芸大池田分校のグラウンドを予定している。しかしいずれも交通の不便なところなのでいまから頭を悩ましている。

話題のチーム⑧ 秋田和洋女高の巻

（写真は秋田和洋女高チーム）

秋田国体で地元の秋田和洋女高がベスト4に残り、堂々と4位になったのは驚異だった。というのはチームを結成してやっと四年目の新進チームだからである。ここまで成長したのは校長の高橋先生、大守先生、それに豊島監督（秋田大出身）の力が大きい。三十二年夏に芝浦工大が秋田県湯沢市で合宿したとき、豊島監督が見学にきた。これを参考にして〃チームづくり〃に取りかかったというのだから大したものである。この学校はシツケのきびしいので有名、校門をはいると掲示板に「本校は良妻賢母を育成する」と書いてある。およそスポーツには縁遠い。それなのに「秋田国体があるから上位入賞をねらえるスポーツを……」と高橋校長が積極的に乗り出し、ハンドボール誕生となった。三十三年から現在まで芝浦工大OBの中沢君（芝浦工大コーチ）がコーチしてきた。三十三年の又涌谷高校の合宿にも加えて貰った。三十四年のインターハイ（函館）で大敗したが、三十五年のインターハイ（仙台）では彦根東高を破って初めて1勝した。その後実力がつき、三十六年の東北選手権兼国体予選で名門の涌谷高（宮城）を破って優勝し、堂々と秋田国体に出場したわけである。全国大会で上位に入賞したのは秋田国体が初めて。三十七年三月には六人が卒業し、このうち太田嬢がレナウン工業（東京）に入社する予定。こんどは実業団チームの選手 て活躍する。チーム・カラーはおしとやか、しかしこれか っ大いに躍進するチームである。

近く全国自衛隊大会

▽防衛庁は近く第一回全国自衛隊ハンドボール大会を開く。いままでラグビーの全国大会があったが、団体ゲームの必要なところから、いちばん親しみやすいハンドボールをとりあげた。

芝工大、連続代表に

王座決定東日本予選

第五回全日本学生王座決定東日本予選は11月12日仙台市の宮城野原総合グラウンドで中京大（東海学連）、東北学院大（東北・北海道学連）、芝浦工大（関東学連）の三チームによりリーグ戦を行なった。この結果芝浦工大が2勝して東日本代表となった。

芝浦工大 16（8―2、8―2）4 中 京 大

中 京 大 20（10―3、10―7）10 東北学院

芝浦工大 24（12―6、12―2）8 東北学院

1 芝浦工大 2勝

2 中京大 1勝1敗

3 東北学院 2敗

同志社大が初代表

王座決定西日本予選

第五回全日本学生王座決定戦西日本予選は11月16日午後2時から西宮球技場で行なわれた。同志社大（関西学連代表）は速攻と正確なシュートで広島商大（九州・中国学連代表）を24―13で破り、西日本代表となった。

同志社大 24（13―7、11―6）13 広島商大

（同志社大は初出場）

訂正 第7号31頁の三重県郡市対抗競技大会準決勝、員弁郡19―6津市は員弁郡19―16津市の誤りでした。また第6号、地方だより29頁九州近県室内総合選手権大会記録の女子準々決勝菊地農蚕高クラブ8―7明善高クラブは明善高8―7菊地農蚕高クの誤りでした。したがつて同準決勝及び決勝の菊地農蚕高クラブとあるのは、明善高クラブの誤りで、正しい記録は次のとおり。

▽準決勝

太洋デパート 21―2 明善クラブ

明 善 高 ク 8―5 熊本市高ク

▽決 勝

太洋デパート 21（8―3、13―3）6 明善高ク

以上遅くなりましたが訂正してお詫びします。

投書欄

全国的に視野を広げて

この本には主に大学のことが書いてあるようですが、もう少し高校生のことも書いてもらいたい。それに関東、関西の記事が多いようです。東北の高校、大学でも、毎日汗を流してがんばっているんです。もっと目を大きくあけて、日本のすみずみまで見て全国のことを書いたら、もっともっと発展すると思います。

（山形県・大沼勇）

係から―つとめて全国的な広範囲な取材を心がけております。読者諸兄姉の協力をお願いします。地方大会の写真などを係までお送り下さい。

表紙写真の説明を

一愛読者ですが、表紙の写真が何だかさっぱりわかりません。何大会の何グランドで誰がシュートという具合に説明を加えて下さい。

（名古屋市・伊藤孝雄）

係から―毎号目次欄の後尾に説明を入れるようにしております。表紙写真の希望、推薦がありましたらお寄せ下さい。

力を合わせて前進

ハンドボールはオリンピック東京大会から除外された。われわれハンドボールファンにとっては実に残念だ。こうなった以上は1968年のオリンピックをめざして大きなプランを立ててもらいたい。そればかりではない。各競技団体がやっているように毎年国際試合をやって日本のレベルをさらに引き上げるよう関係者に希望する。国際試合には日本へ招待するのと、海外に遠征するのと二つある。外国チームを招待するのもいいが、それよりも海外に遠征して各国の実力を打診することの方が成果が大きい。十月に日体大が韓国に遠征して6戦6勝の記録を残した実力の差ではあったろうが、なかなか油断ができない。一、二年もすればかなり強力になる。韓国を無視することはできない。いまのところ日本が指導的な立ち場で大いにコーチして行くことが大切だと思う。スポーツには国境がない。共産圏は非常に強いので中国でもルーマニアでもチェコでもソ連でもいい。ドイツ、フランスでもいい。日本の力を上げることが1968年のオリンピックに備えるものと思う。それにはハンドボール出身者が力を合わせて前進することだ。

（大阪・稲川政右衛門）

質問欄

問 神戸ストークとはどのような選手で形成されていますか？
来年度の全日本総合・実業団・全日本室内総合各選手権大会の開催地はどこですか？

（四国・車生）

答 昨年の第3回全日本教職員選手権大会で初優勝した神戸ストークは、学生時代にハンドボールの選手などをしていて現在神戸の学校の先生をしている人達が集って作っているクラブチームです。メンバーは監督大原靖男、主将小島正雄、選手新井、平、梅田、横田、近藤、狩野、幸田、南、泉、藤原の顔ぶれです。なお昨年十月発行の本誌3号に写真が掲載されています。
来年度の全日本総合は山口県全日本室内は横浜市、実業団は名古屋市が予定されています。

問 日体大が韓国に遠征しましたが、ほかの大学の選手はひとりも行かなかったのですか。

（鹿児島・一ファン）

答 韓国には日体大の出身者がいます。その人たちの招待で栗本学長らが遠征しました。協会からは馬場太郎副会長（日体大出）が同行しました。同副会長は現在桃山学院大学の監督をしています。

問 第十八回山口国体の開催地（ハンドボール）はどこですか。

（東京・高校生）

答 山口県の徳山市と下松（くだまつ）市です。なお第十七回大会（岡山県）は倉敷市です。

問 関西学生リーグの二部のチームをお知らせください。

（広島・一高校生）

答 立命大、大阪市大、大阪歯大、大阪経大、大阪学芸大、大阪工大、大阪大学の七チームです。なお立命大は秋のリーグ戦で優勝しましたが、一、二部入れ替え戦で大阪府大（一部）に負けました。

問 反則数が非常に多い。それで反則をフリー・スローと改称した方がいいのではないか。

（熊本・一ファン）

答 確かに反則の多いのは感心しません。フリー・スローにした方が見た目もいい。審判の中でもフリー・スローにした方がいいといっています。研究してみます。

編集後記

機関誌を出して第八号目、年間に四回出すことになっているのでちょうど二年になります。最初のうちはどうなるものかと思案していましたが、無事二年間を過しました。機関誌を出すことはハンドボールファンの絶大な応援がなければできません。その点大いに感謝しています。

▽…日体大が韓国に遠征したので、その記録を掲載しました。韓国は日本とは切っても切れない深い仲です。戦後十六年にして親善試合ができたのはよろこばしいことです。韓国側の希望は日本の高校チームを招待し、韓国の大学チームを日本へ遠征させたいということです。これからは日韓の間でハンドボールが盛んになりましょう。

▽…芝浦工大がことしも公式戦で27連勝した。りっぱなものだと感心しています。

▽…地方のニュースが少ないので困っています。地方のニュースを知りたい人のためにどしどし送ってください。「熊本市では中学大会をやっているとかきいている。その記録をほしい」というファンがいます。熊本に限らずどんな記録でも結構ですから編集部まで送ってください。

▽…NHK（名古屋）の杉山記者は本誌のために地方のニュースをよくまとめてくれます。感謝しています。

▽…第9号以後もどうか本誌をかわいがってください。（ふぐ）

● 群衆の中でも、大自然の中でも………
レナウン スポーツシャツ
RENOWN MEN'S SPORT WEAR
RENOWN レナウン
レナウン商事株式会社　東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡